

**城陽市地域福祉計画策定に関する
アンケート調査結果報告書**

**令和5年(2023年)7月
城陽市**

目次

I. 調査の概要.....	1
1 調査目的.....	3
2 実施要領.....	3
3 回収状況.....	3
4 報告書の見方.....	3
5 調査結果の概要.....	4
II. 調査の結果.....	7
1 基本的事項.....	9
〔1〕 性別	
〔2〕 年齢	
〔3〕 家族構成	
〔4〕 子ども、高齢者、介護・介助の必要な家族の有無	
〔5〕 職業	
〔6〕 世帯の年収	
〔7〕 世帯の年収の生活費に対する実感	
〔8〕 住宅の形態	
〔9〕 居住地域	
〔10〕 居住年数	
2 地域とのかかわりについて.....	18
〔1〕 「地域」の範囲	
〔2〕 近所付き合いの程度	
〔3〕 参加している地域活動	
〔4〕 参加していない理由	
〔5〕 地域の行事や活動の活発化に必要なこと	
3 地域の福祉について.....	23
〔1〕 福祉に対する関心	
〔2〕 関心のある福祉の分野	
〔3〕 福祉に関わる地域の課題	
〔4〕 各福祉活動主体の認知	
〔5〕 福祉サービスの情報源	
〔6〕 福祉サービスに関する情報は得られているか	
〔7〕 福祉サービスの情報が得られない理由	
〔8〕 地域の福祉サービスは充実しているか	
4 悩みや困りごとについて.....	44
〔1〕 現在の生活上の困りごと	
〔2〕 新型コロナウイルス感染症拡大より前の生活上の困りごと	
〔3〕 悩みや不安の相談先	

〔4〕 相談しない理由	
〔5〕 必要な支援	
5 地域での支え合いについて.....	52
〔1〕 手助けできること、手助けしてほしいこと	
〔2〕 災害時の対策	
6 ボランティア活動について.....	56
〔1〕 ボランティア活動への参加	
〔2〕 参加している活動の種類	
〔3〕 参加したい頻度	
〔4〕 参加していない理由	
7 社会全体や城陽市の福祉について.....	60
〔1〕 ノーマライゼーションへの理解	
〔2〕 障がいのある方と共生するために必要なこと	
〔3〕 今後の福祉のあり方	
〔4〕 互いに安心して暮らすために大切なこと	

I. 調査の概要

1 調査目的

本調査は、平成30年（2018年）3月に策定した「城陽市地域福祉計画」の計画年度が平成30年度（2018年度）から令和5年度（2023年度）までであることから、本市にお住まいの18歳以上の方を対象に、地域福祉に関するご意見をお伺いし、「城陽市地域福祉計画」の見直しの基礎資料とするために実施したものです。

2 実施要領

（1）調査地域

城陽市内全域

（2）調査対象及び標本抽出方法

市内在住の18歳以上の方から2,000人を無作為抽出

（3）調査方法

郵送による配布・回収

（4）調査基準日

令和4年（2022年）11月1日

（5）調査時期

配布開始：令和4年（2022年）11月25日（金）

回収終了：令和4年（2022年）12月16日（金）

3 回収状況

有効回収数 890件

有効回収率 44.5%

4 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効回答数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものを集計しています。
- 図表等の「n (Number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

5 調査結果の概要

(1) 基本的事項

回答者の年齢については、「70歳以上」が最も多く半数近くとなっています。

家族構成については、「2世代の同居世帯（親と未婚の子の世帯）」や「夫婦のみの世帯」が多くなっています。

子ども、高齢者、介護・介助の必要な家族の有無については、「75歳以上の方」や「65歳以上 75歳未満の方」が多くなっています。一方、「いずれもない」も多くなっています。

(2) 地域とのかかわりについて

近所付き合いの程度については、「顔を合わせばあいさつをする程度」が最も多く、「付き合いをしていない」はわずかにとどまっています。

参加している地域活動については、「自治会活動」への参加が最も多くなっています。一方、「参加していない」も次いで多くなっており、参加していない理由については、「学校や仕事で忙しい」が最も多くなっています。

地域の行事や活動の活発化に必要なことについては、「住民同士が困ったときに、今以上に支え合える関係をつくる」や「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げる」が多くなっています。

(3) 地域の福祉について

福祉に対する関心については、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある』が約7割となっています。また、関心のある福祉の分野については「高齢者に関する福祉」が最も多く、約8割となっています。

福祉に関わる地域の課題については、「一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯に関すること」が最も多く、約5割となっています。

各福祉活動主体の認知については、自治会が最も高くなっており、「活動内容を知っている」が約7割となっています。

福祉サービスの情報源については「広報じょうよう」が最も多く、約7割となっています。また、福祉サービスに関する情報は得られているかについては、「十分得ることができる」と「だいたい得ることができる」を合わせた『得ることができる』が約4割、「あまり得ることができない」と「ほとんど得ることができない」を合わせた『得ることができない』が約5割となっています。

地域の福祉サービスは充実しているかについては、「なんともいえない」が約6割となっています。

(4) 悩みや困りごとについて

現在の生活上の困りごとについては、「老後の生活や介護に関すること」が最も多く、約5割となっています。次いで「自分や家族の健康や病気のこと」となっています。

新型コロナウイルス感染症拡大より前の生活上の困りごとについては、「自分や家族の健康や病気のこと」や「老後の生活や介護に関すること」が多くなっています。

悩みや不安の相談先については、「家族」が最も多く、約8割となっています。

また、仕事や生活に困っている方に対して必要な支援については、「自立に向けた相談の充実」が最も多く、約5割となっています。

(5) 地域での支え合いについて

手助けできることについては、「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」が最も多く、約7割となっています。次いで、「話し相手や、相談事の相手」が多く、約6割となっています。また、「玄関前の掃除や植木の水やり、ごみ出しなど」、「買い物の代行や簡単な用事（手紙の投函、荷物の受け取りなど）」も多く、約5割となっています。

一方、手助けしてほしいことについては、「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」が最も多く、約5割となっています。

災害時の対策については、「災害時の情報をすみやかに伝達できるよう情報伝達システムを充実させる」が最も多く、約6割となっています。次いで、「日頃から隣近所が声をかけ合い、支え合うようにする」が多く、約5割となっています。

(6) ボランティア活動について

「参加している」に比べて、「参加していないが機会があれば参加したい」と「参加していない」を合わせた『参加なし』が多く、約9割となっています。参加していない理由については、「時間の余裕がない」や「健康に自信がない」が多くなっています。

一方、「参加していないが機会があれば参加したい」を選んだ方がボランティア活動に参加したい頻度については、「行事などがあるとき、不定期に」が最も多く、約5割となっています。

(7) 社会全体や城陽市の福祉について

ノーマライゼーションへの理解については、「かなり進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせた『進んでいる』に比べて、「あまり進んでいない」と「まったく進んでいない」を合わせた『進んでいない』が多くなっています。

障がいのある方と共生するために必要なことについては、「職場や学校において障がいのある方のための適切な設備や環境を整える」や「障がいのある方への理解を深める教育・講習などを行う」が多くなっています。

今後の福祉のあり方については、「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合う仕組みをつくるべき」が最も多く、約6割となっています。また、互いに安心して暮らすために大切なことについては、「福祉に関して気軽に相談できる窓口をつくること」や「高齢者も在宅生活が続けられるサービスを充実させること」が多くなっています。

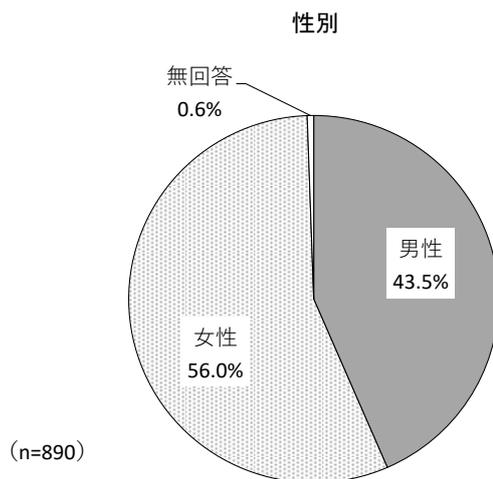
Ⅱ. 調査の結果

1 基本的事項

〔1〕性別

問1 あなたの性別は。※ご自身が認識されている性別または状態をお書きください。

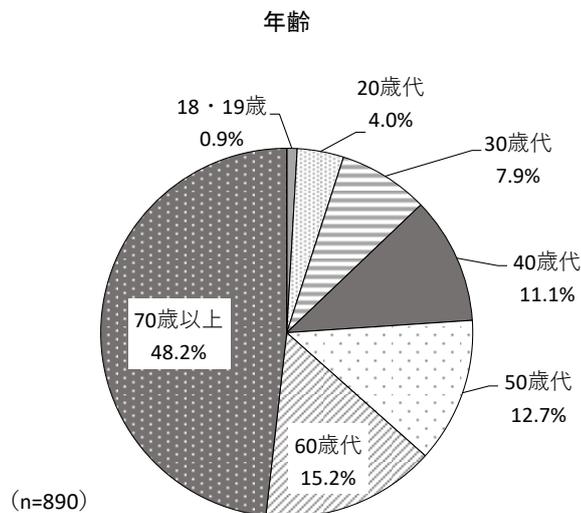
回答者の性別は、「男性」が43.5%、「女性」が56.0%となっています。



〔2〕年齢

問2 あなたの年齢は。（下記から選んで○をつけてください）

回答者の年齢は、「70歳以上」が48.2%で最も多く半数近くとなっています。次いで、「60歳代」が15.2%、「50歳代」が12.7%、「40歳代」が11.1%となっています。

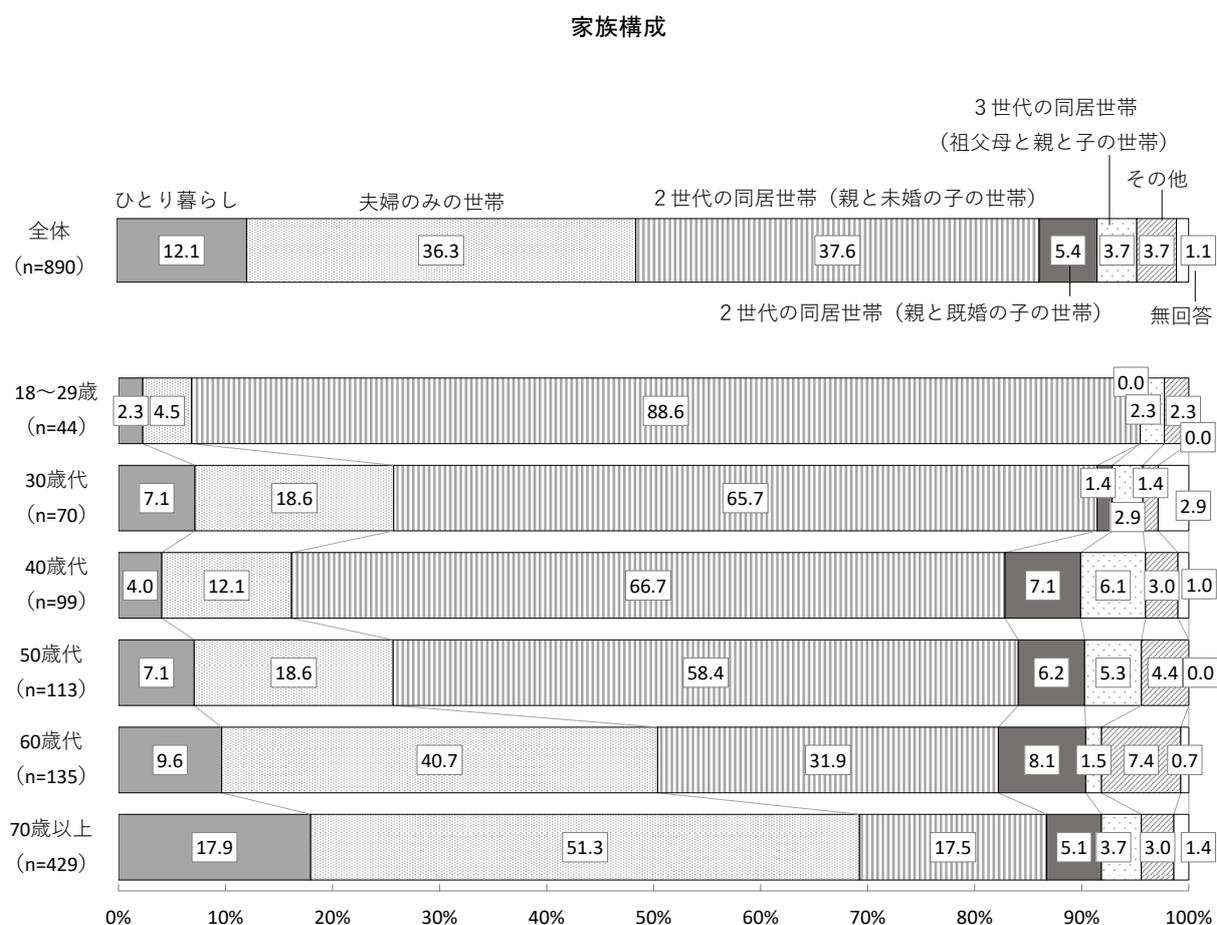


〔3〕 家族構成

問3 あなたの家族構成は。(下記から選んで○をつけてください)

回答者の家族構成は、全体では「2世代の同居世帯(親と未婚の子の世帯)」が37.6%と最も多く、次いで、「夫婦のみの世帯」が36.3%、「ひとり暮らし」が12.1%となっています。

年齢別にみると、50歳代以下で「2世代の同居世帯(親と未婚の子の世帯)」が、70歳以上で「夫婦のみの世帯」が全体に比べて特に多くなっており、5割以上となっています。

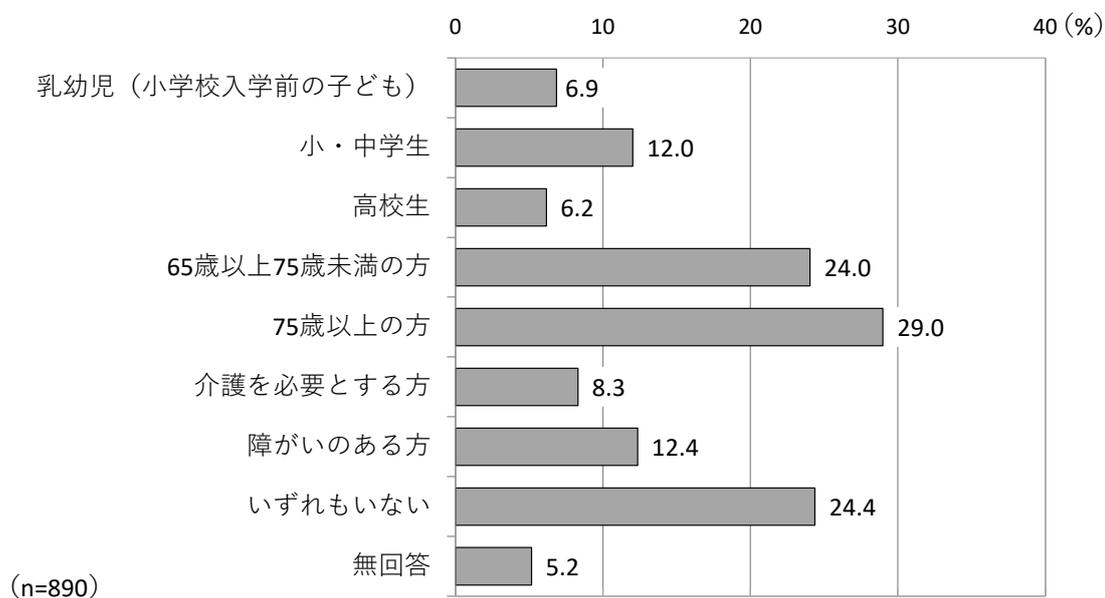


〔4〕子ども、高齢者、介護・介助の必要な家族の有無

問4 あなたが現在一緒に住んでいるご家族の中に、次のような方（あなた自身も含まます）はおられますか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

回答者の同居する家族の中に、子どもや高齢者、介護・介助の必要な方がいるかについては、「75歳以上の方」が29.0%と最も多く、次いで、「65歳以上75歳未満の方」が24.0%、「障がいのある方」が12.4%、「小・中学生」が12.0%となっています。一方、「いずれもない」は24.4%となっています。

子ども、高齢者、介護・介助の必要な家族の有無

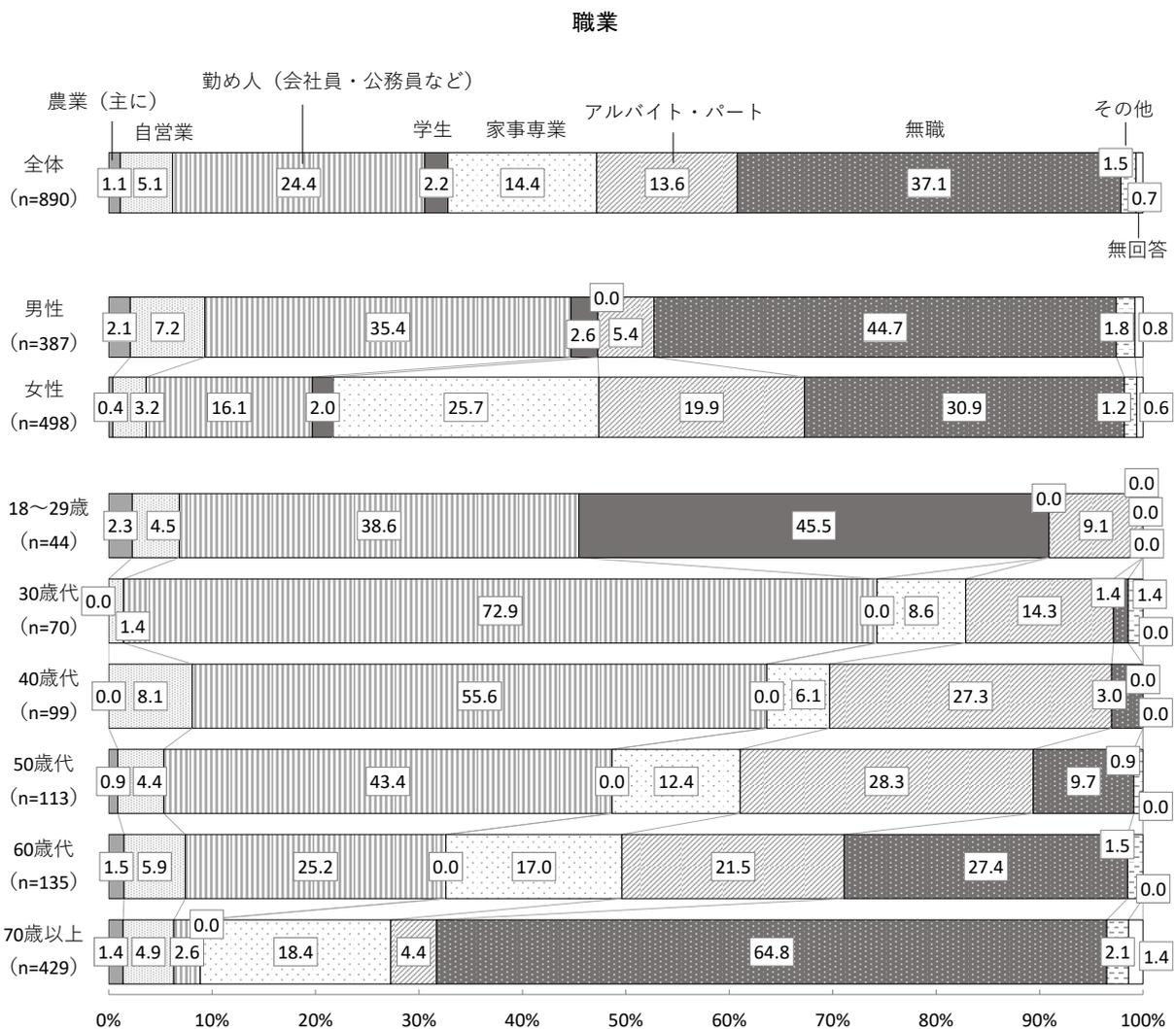


〔5〕 職業

問5 あなたの職業は。(下記から選んで○をつけてください)

回答者の職業は、全体では「勤め人(会社員・公務員など)」が24.4%と最も多く、次いで、「家事専業」が14.4%、「アルバイト・パート」が13.6%となっています。一方、「無職」は37.1%となっています。

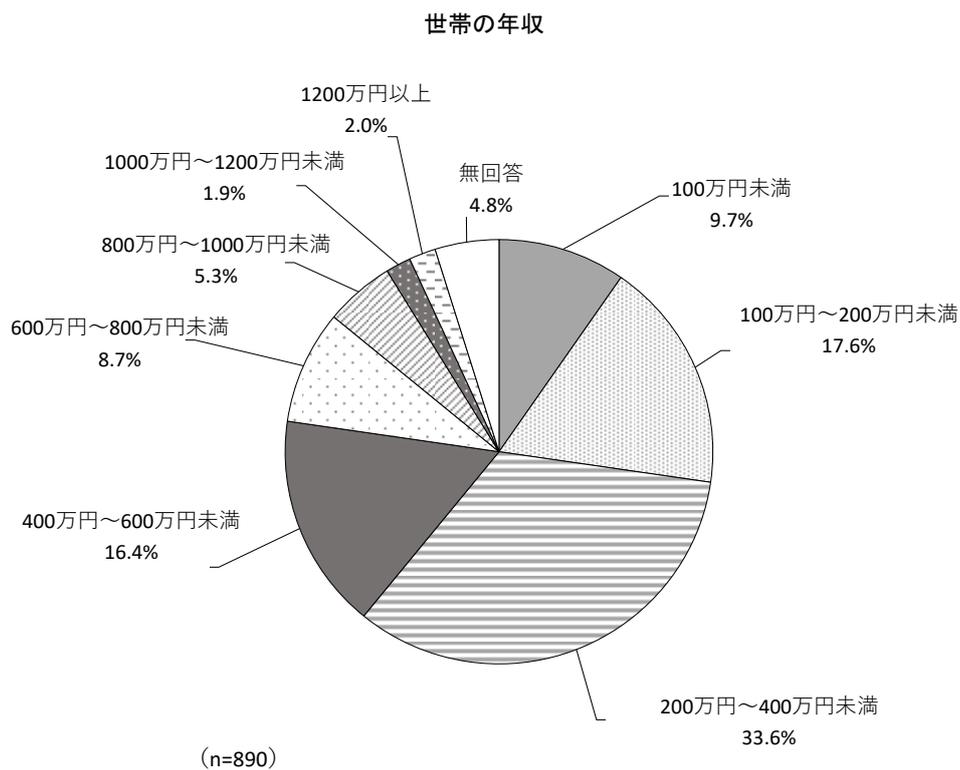
年齢別にみると、60歳代でも、「自営業」、「勤め人(会社員・公務員など)」と「アルバイト・パート」の合計が52.6%となっており、約5割の方が就労しています。



〔6〕世帯の年収

問6 あなたの世帯の過去1年間のおよその年収は。(下記から選んで○をつけてください)

回答者世帯の過去1年間のおよその年収は、「200万円～400万円未満」が33.6%と最も多く、次いで、「100万円～200万円未満」が17.6%、「400万円～600万円未満」が16.4%となっています。

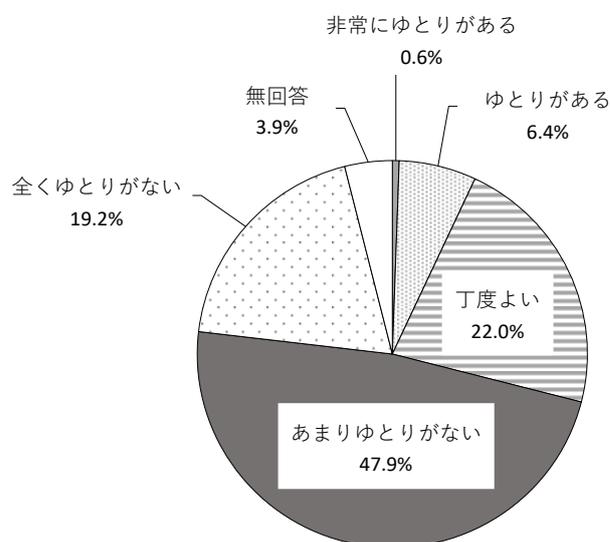


〔7〕世帯の年収の生活費に対する実感

問6-1 問6で回答いただいた収入は、現在の生活費に対してどのようなと考えていますか。（下記から選んで○をつけてください）

回答者世帯の世帯年収が現在の生活費に対してどのように実感されているかについては、「非常にゆとりがある」と「ゆとりがある」を合わせた『ゆとりあり』が7.0%、「あまりゆとりがない」と「全くゆとりがない」を合わせた『ゆとりなし』が67.1%となっています。

世帯の年収の生活費に対する実感

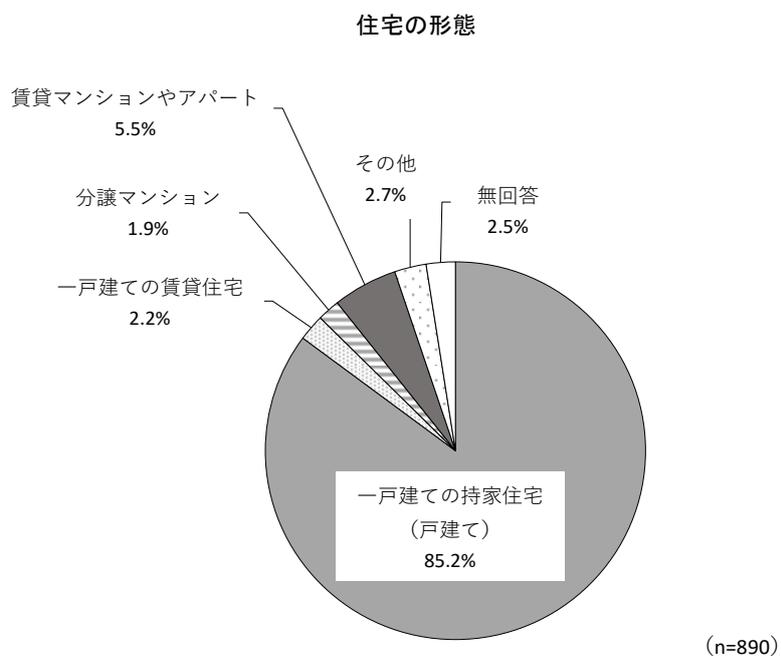


(n=890)

〔8〕住宅の形態

問7 あなたの住宅は。（下記から選んで○をつけてください）

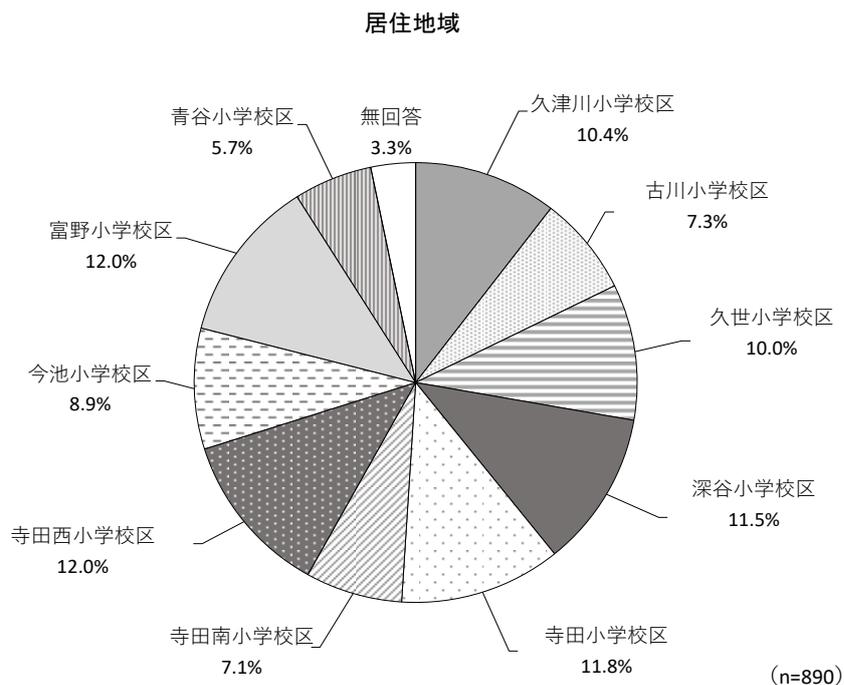
住宅の形態は、全体では「一戸建ての持家住宅（戸建て）」が85.2%と最も多くなっています。



〔9〕 居住地域

問8 あなたのお住まいの小学校区は。（下記から選んで○をつけてください）

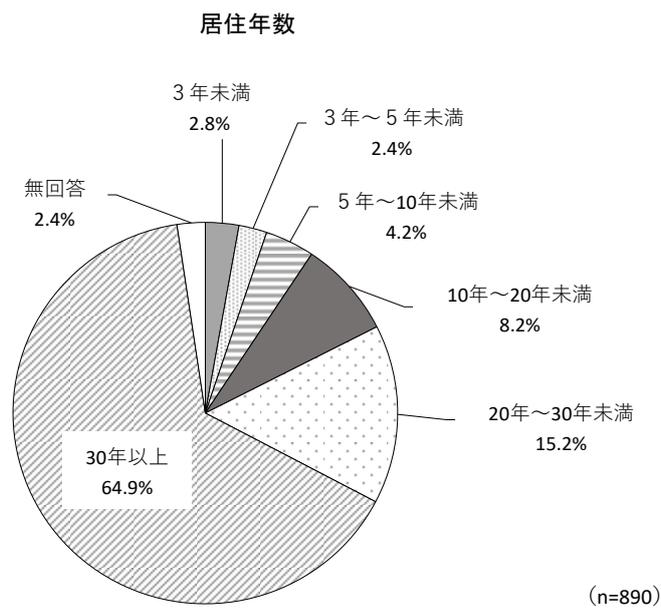
居住する小学校区は、「寺田西小学校区」、「富野小学校区」が12.0%で最も多く、次いで、「寺田小学校区」が11.8%、「深谷小学校区」が11.5%となっています。



〔10〕 居住年数

問9 あなたは城陽市にどれくらいの間、お住まいですか。（下記から選んで○をつけてください）

居住年数は、「30年以上」が64.9%と最も多く、次いで、「20年～30年未満」が15.2%となっています。



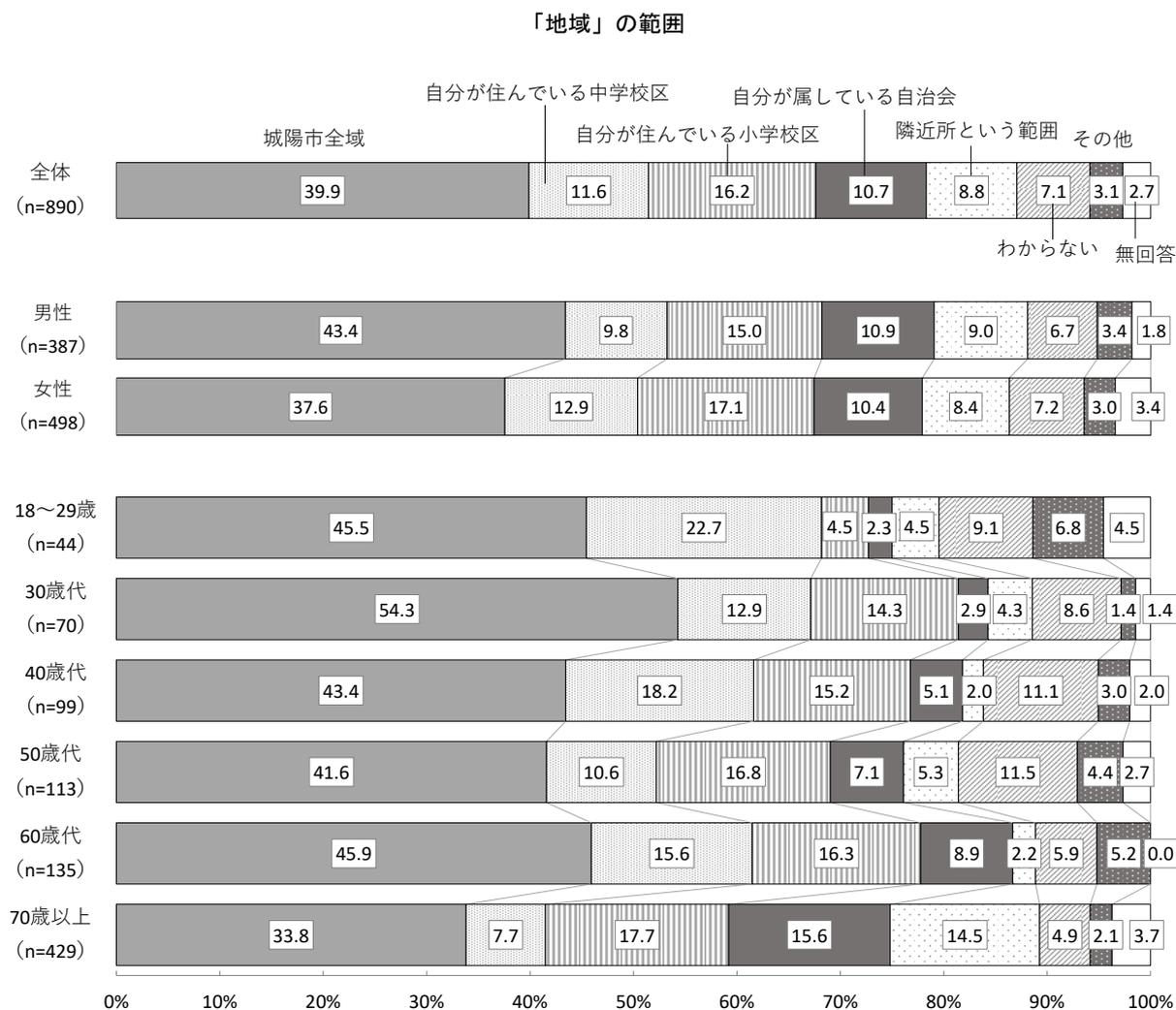
2 地域とのかかわりについて

〔1〕「地域」の範囲

問10 あなたにとって「生活上の地域」とは、どの範囲のことをいいますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

「生活上の地域」の範囲については、全体では「城陽市全域」が39.9%と最も多く、次いで、「自分が住んでいる小学校区」が16.2%、「自分が住んでいる中学校区」が11.6%、「自分が属している自治会」が10.7%となっています。

年齢別にみると、18～29歳で「自分が住んでいる中学校区」が全体に比べて特に多くなっています。また、30歳代で「城陽市全域」が全体に比べて特に多く、5割以上となっています。

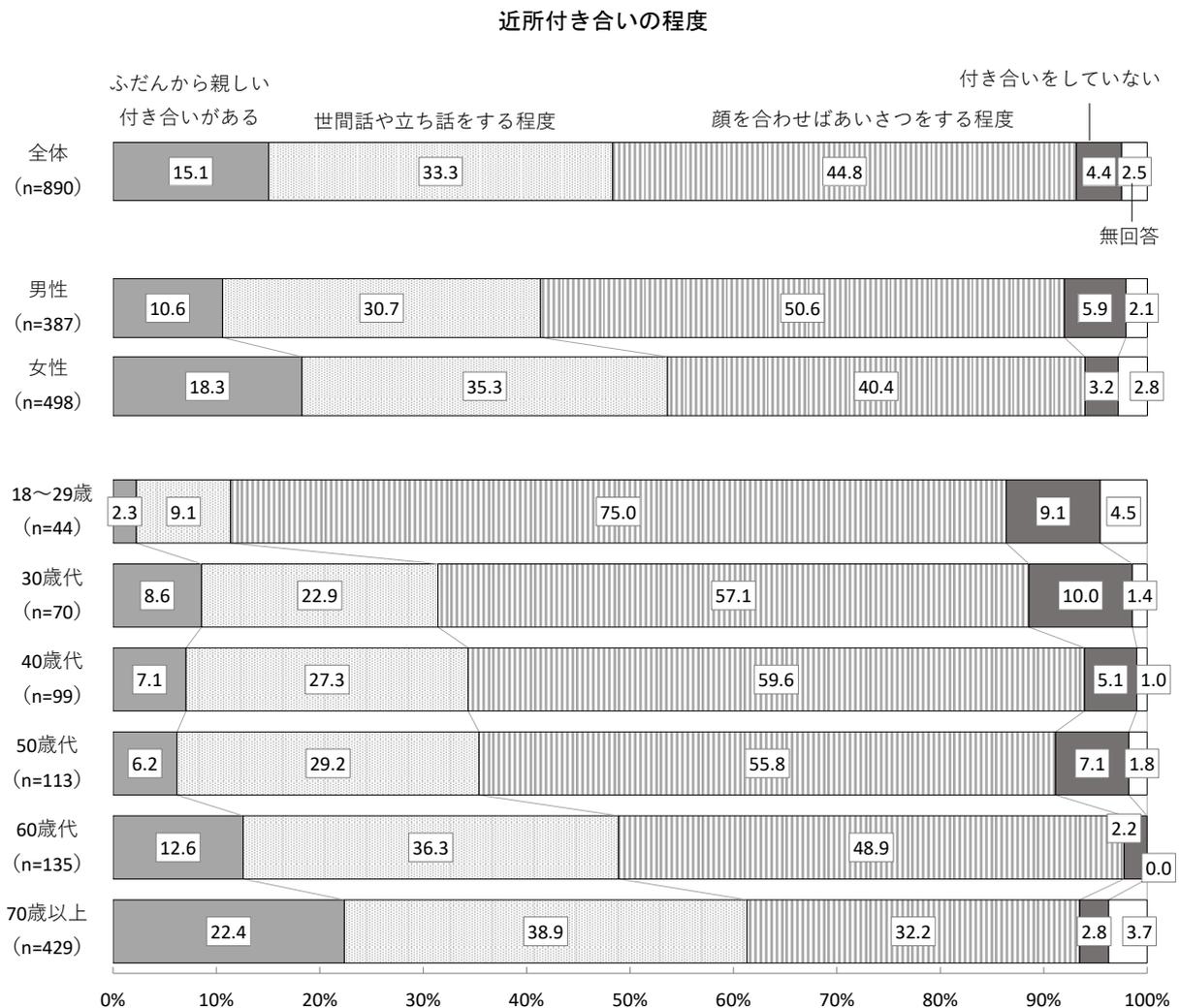


〔2〕近所付き合いの程度

問11 隣近所との付き合いをどの程度していますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

隣近所との付き合いの程度については、全体では、「顔を合わせばあいさつをする程度」が44.8%と最も多く、次いで「世間話や立ち話をする程度」が33.3%、「ふだんから親しい付き合いがある」が15.1%となっています。一方、「付き合いをしていない」は4.4%となっています。

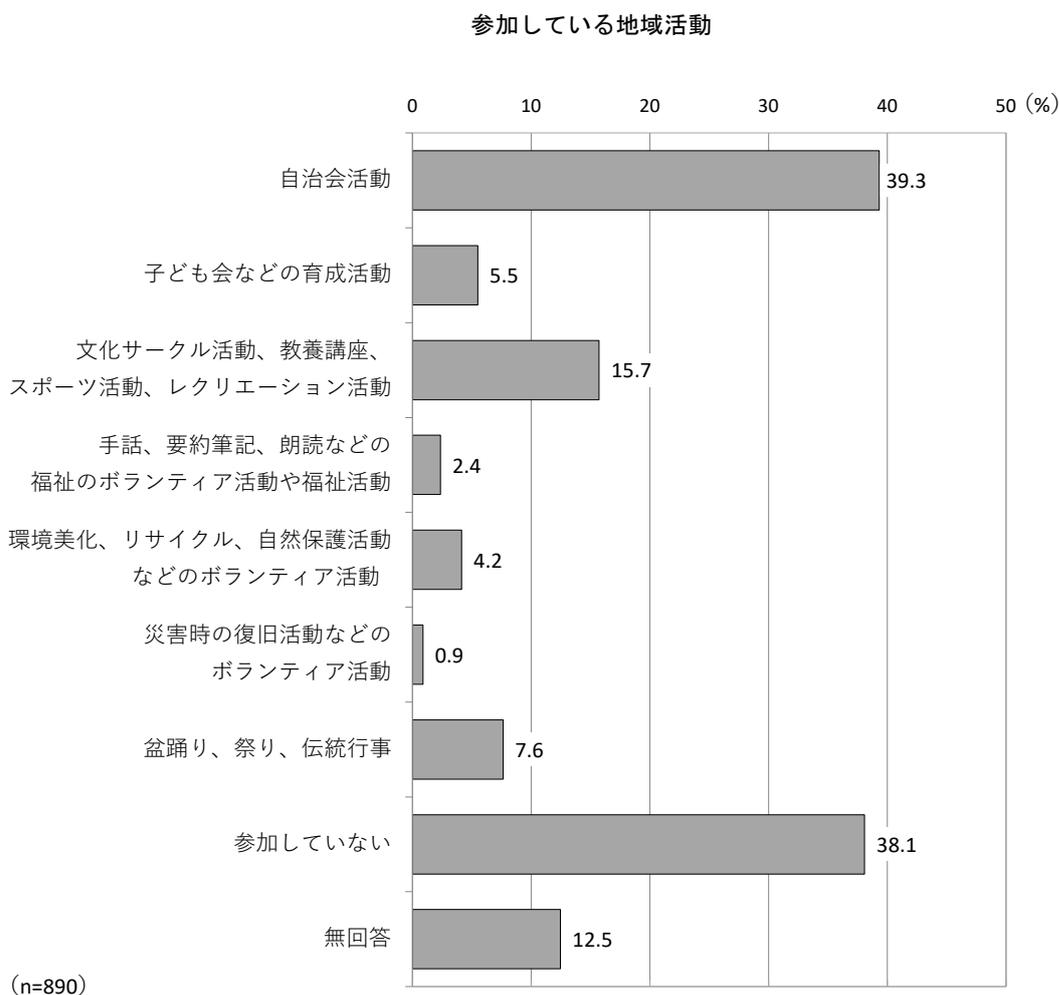
年齢別にみると、若い年齢層ほど「顔を合わせばあいさつをする程度」が多い傾向にあり、高い年齢層ほど「世間話や立ち話をする程度」が多くなっています。また、50歳代以下で「顔を合わせばあいさつをする程度」が全体に比べて特に多く、5割以上となっています。



〔3〕 参加している地域活動

問12 あなたはふだん地域のどのような活動に参加していますか。次の中から参加しているものをいくつでも選んで○をつけてください。

ふだん地域のどのような活動に参加しているかについては、「自治会活動」が39.3%と最も多く、次いで、「文化サークル活動、教養講座、スポーツ活動、レクリエーション活動」が15.7%となっています。一方、「参加していない」は38.1%となっています。

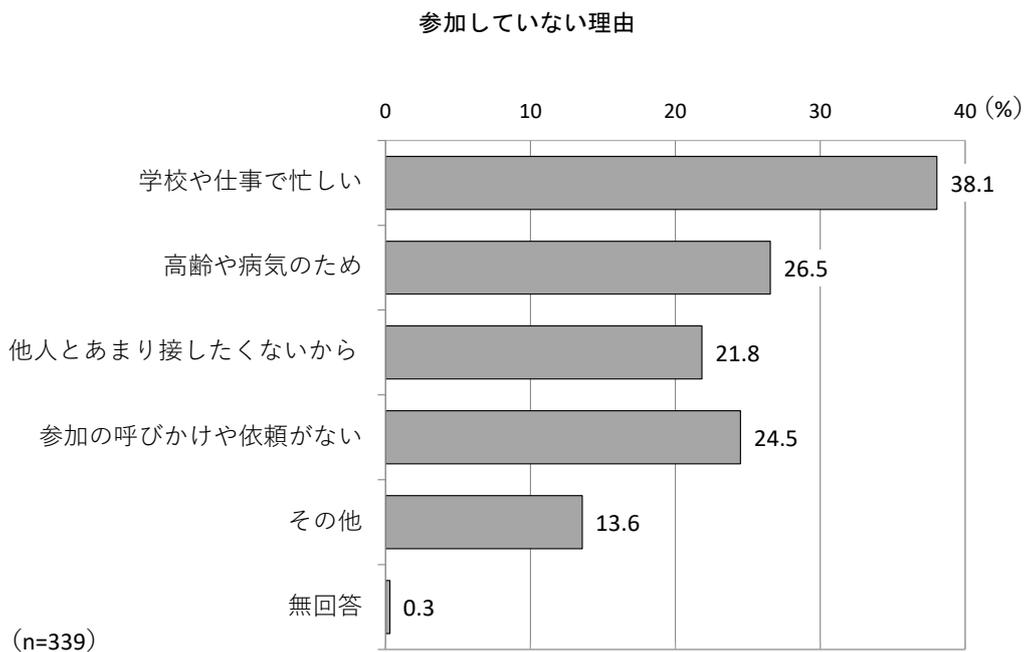


〔4〕参加していない理由

問13 問12で「参加していない」を選んだ方におたずねします。

それはなぜですか。当てはまる理由をいくつでも選んで○をつけてください。

参加していない理由については、「学校や仕事で忙しい」が38.1%と最も多く、次いで、「高齢や病気のため」が26.5%、「参加の呼びかけや依頼がない」が24.5%、「他人とあまり接したくないから」が21.8%となっています。

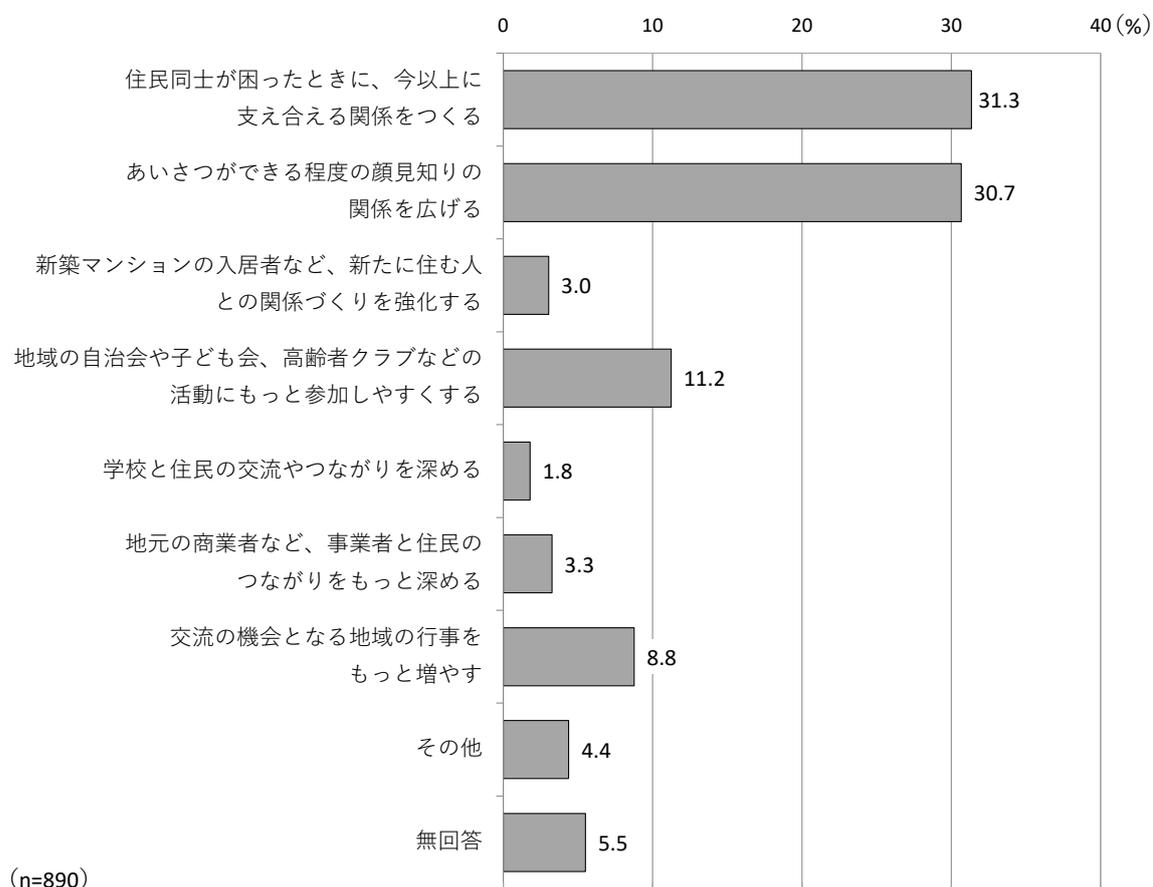


〔5〕地域の行事や活動の活発化に必要なこと

問14 あなたは、お住まいの地域の行事や活動をもっと活発にしていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。最も必要だと思うことを1つだけ選んで○をつけてください。

地域の行事や活動をもっと活発にしていくためにはどのようなことが必要だと思うかについては、「住民同士が困ったときに、今以上に支え合える関係をつくる」が31.3%と最も多く、次いで、「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げる」が30.7%、「地域の自治会や子ども会、高齢者クラブなどの活動にもっと参加しやすくする」が11.2%となっています。

地域の行事や活動の活発化に必要なこと



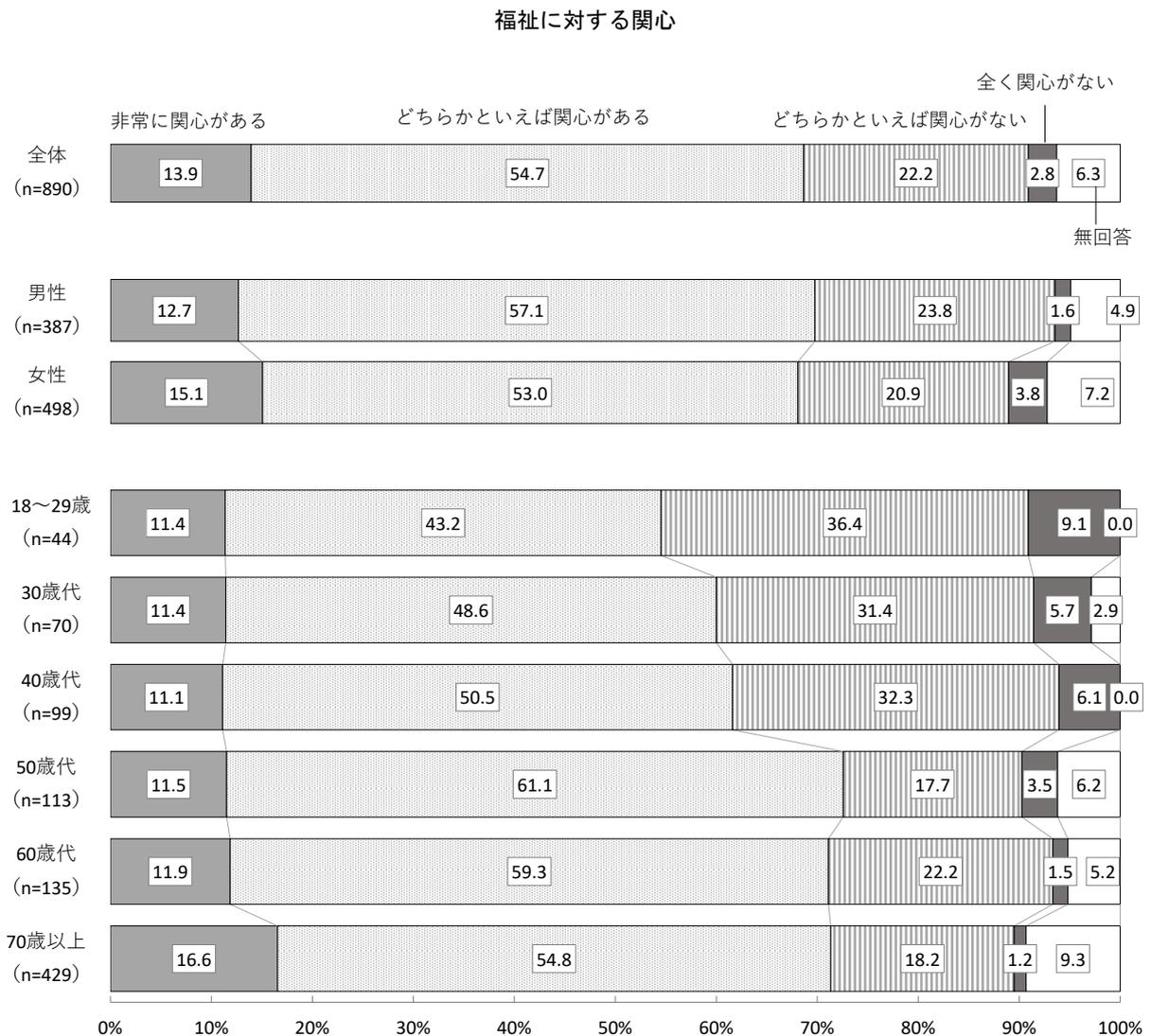
3 地域の福祉について

〔1〕福祉に対する関心

問15 あなたは、福祉に対して関心がありますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

福祉に対して関心があるかについては、全体では、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある』が68.6%、「どちらかといえば関心がない」と「全く関心がない」を合わせた『関心がない』は25.0%となっています。

年齢別にみると、高い年齢層ほど『関心がある』が多い傾向にあります。また、40歳代以下で『関心がない』が全体に比べて特に多くなっています。



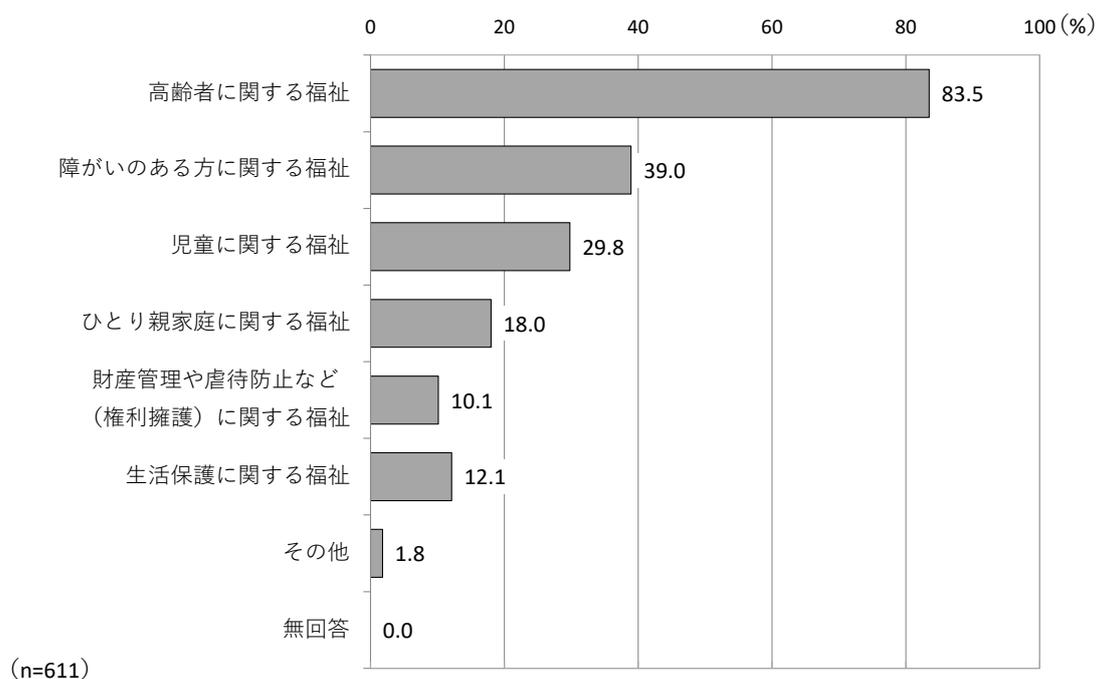
〔2〕 関心のある福祉の分野

問 16 問 15で「非常に関心がある」、「どちらかといえば関心がある」を選んだ方におたずねします。あなたの関心がある福祉は、どのような分野ですか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

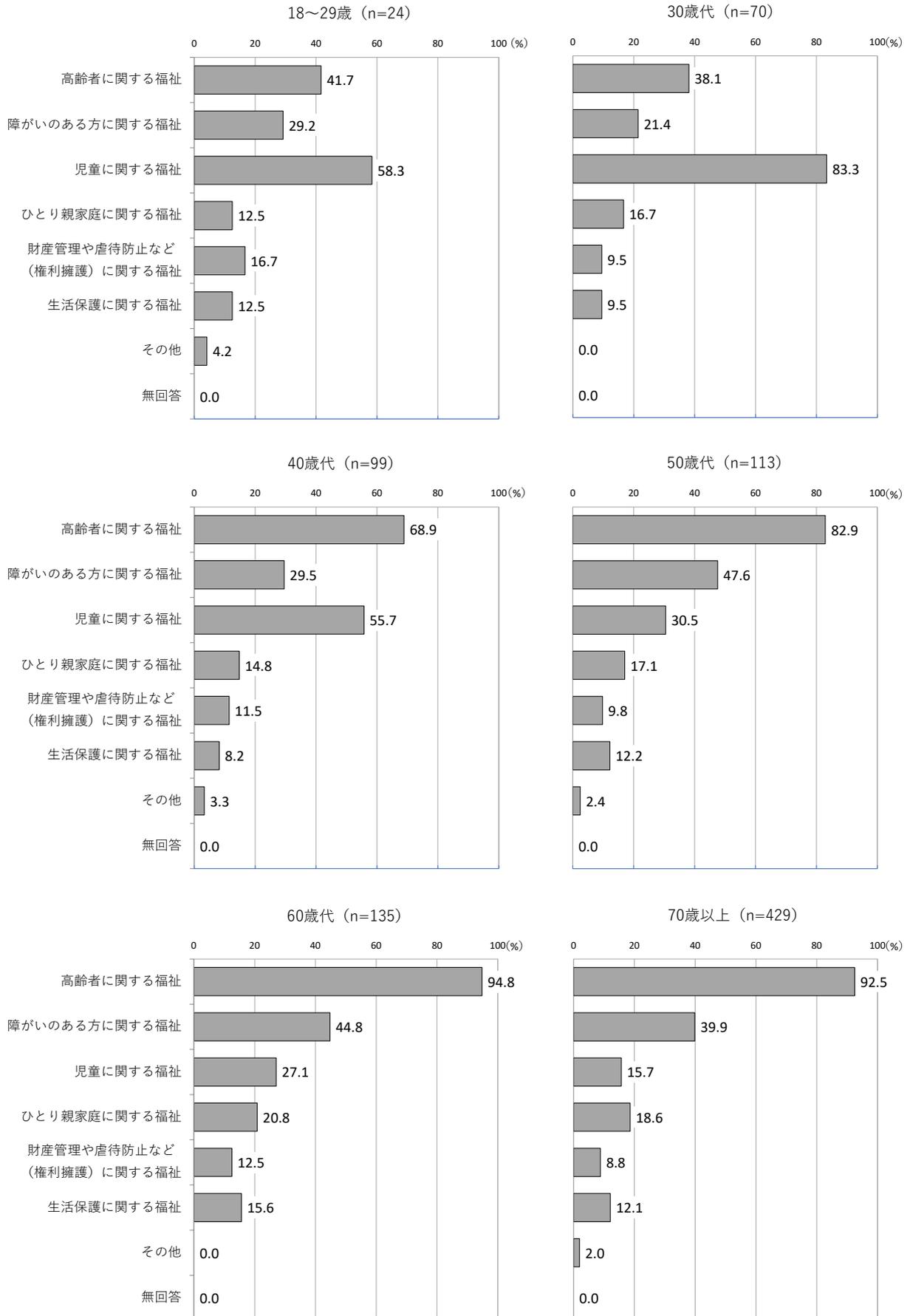
関心のある福祉の分野については、「高齢者に関する福祉」が83.5%と最も多く、次いで、「障がいのある方に関する福祉」が39.0%、「児童に関する福祉」が29.8%、「ひとり親家庭に関する福祉」が18.0%となっています。

年齢別にみると、若い年齢層ほど「児童に関する福祉」が多い傾向にあり、高い年齢層ほど「高齢者に関する福祉」が多い傾向にあります。また、40歳代以下で「児童に関する福祉」が全体に比べて特に多く、5割以上となっています。さらに、60歳代で「高齢者に関する福祉」が全体に比べて特に多くなっています。

関心のある福祉の分野



関心のある福祉の分野（年齢別）



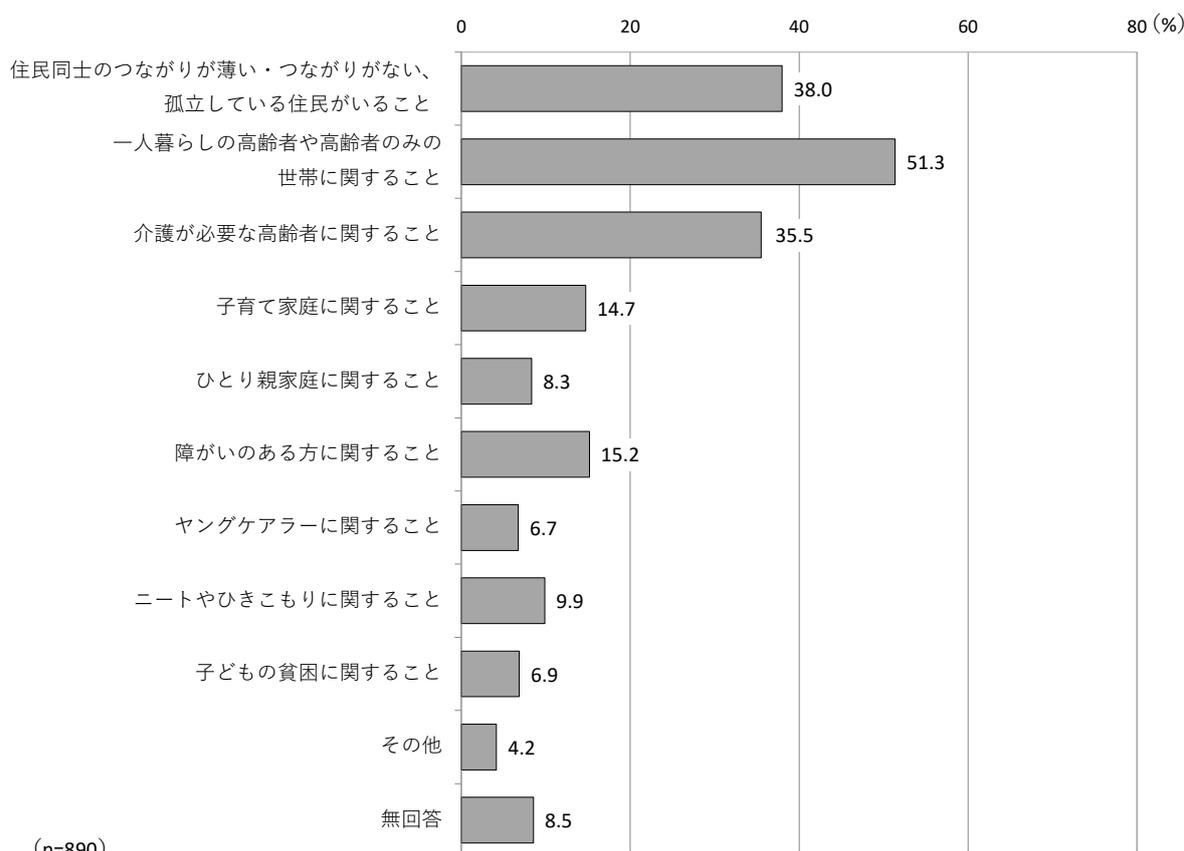
〔3〕福祉に関わる地域の課題

問17 あなたの住んでいる地域には、福祉に関わるどのような課題・問題があると思いますか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

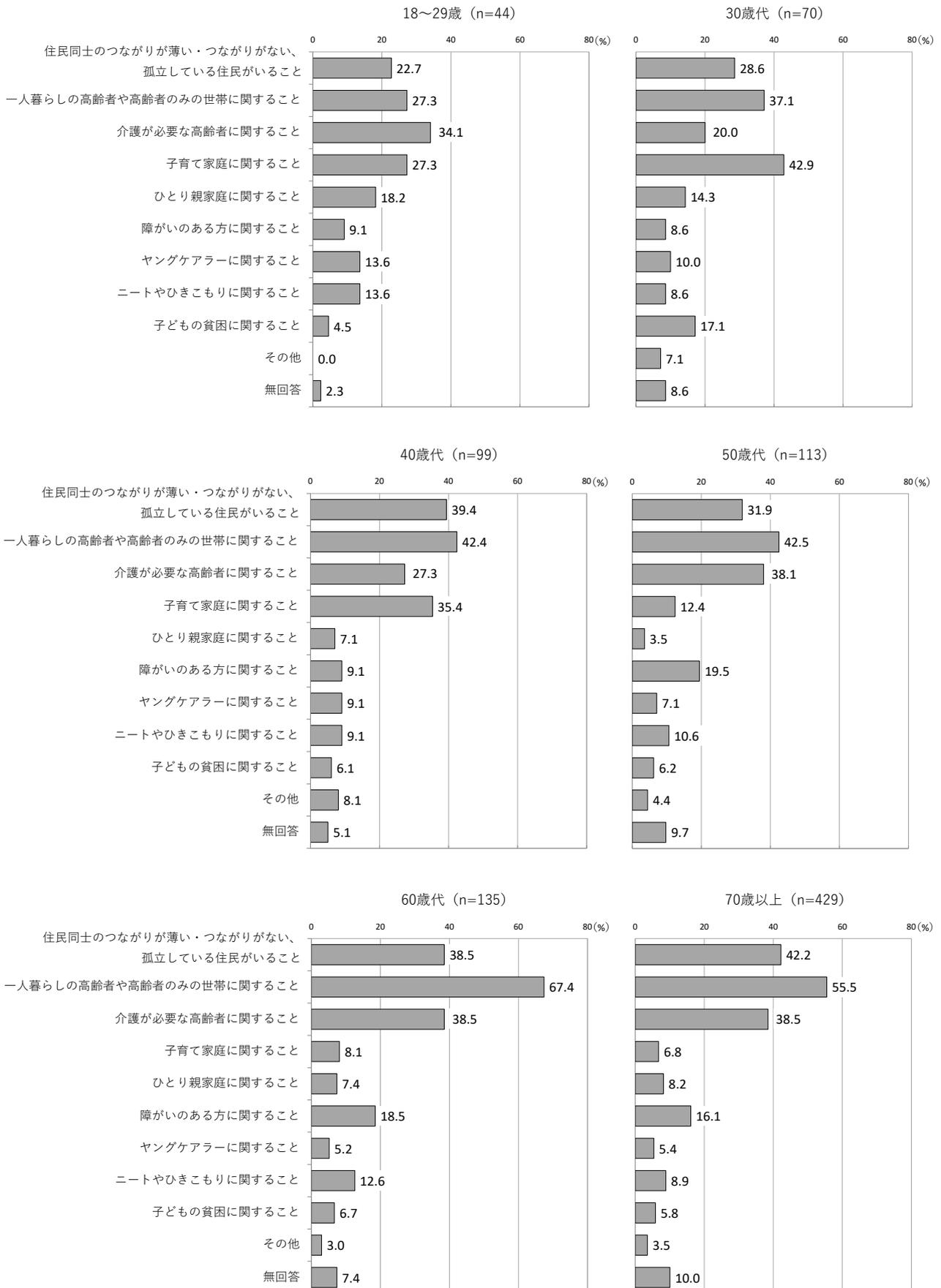
全体では、「一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯に関すること」が51.3%、次いで「住民同士のつながりが薄い・つながりがない、孤立している住民がいること」が38.0%、「介護が必要な高齢者に関すること」が35.5%、「障がいのある方に関すること」が15.2%となっています。

年齢別にみると、若い年齢層ほど「子育て家庭に関すること」、「ヤングケアラーに関すること」が多い傾向にあり、高い年齢層ほど「一人暮らしの高齢者のみの世帯に関すること」が多い傾向にあります。また、40歳代以下で「子育て家庭に関すること」、30歳代で「子どもの貧困に関すること」、60歳代で「一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯に関すること」が全体に比べて特に多くなっています。

福祉に関わる地域の課題



福祉に関わる地域の課題（年齢別）



〔4〕各福祉活動主体の認知

問18 地域における福祉活動を推進するために、さまざまな主体が活動を行っています。あなたがお住まいの地域で、どのような活動をしているかご存じですか。各項目についてお答えください。（当てはまるものをそれぞれ1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。）

(各福祉活動主体の認知一覧)

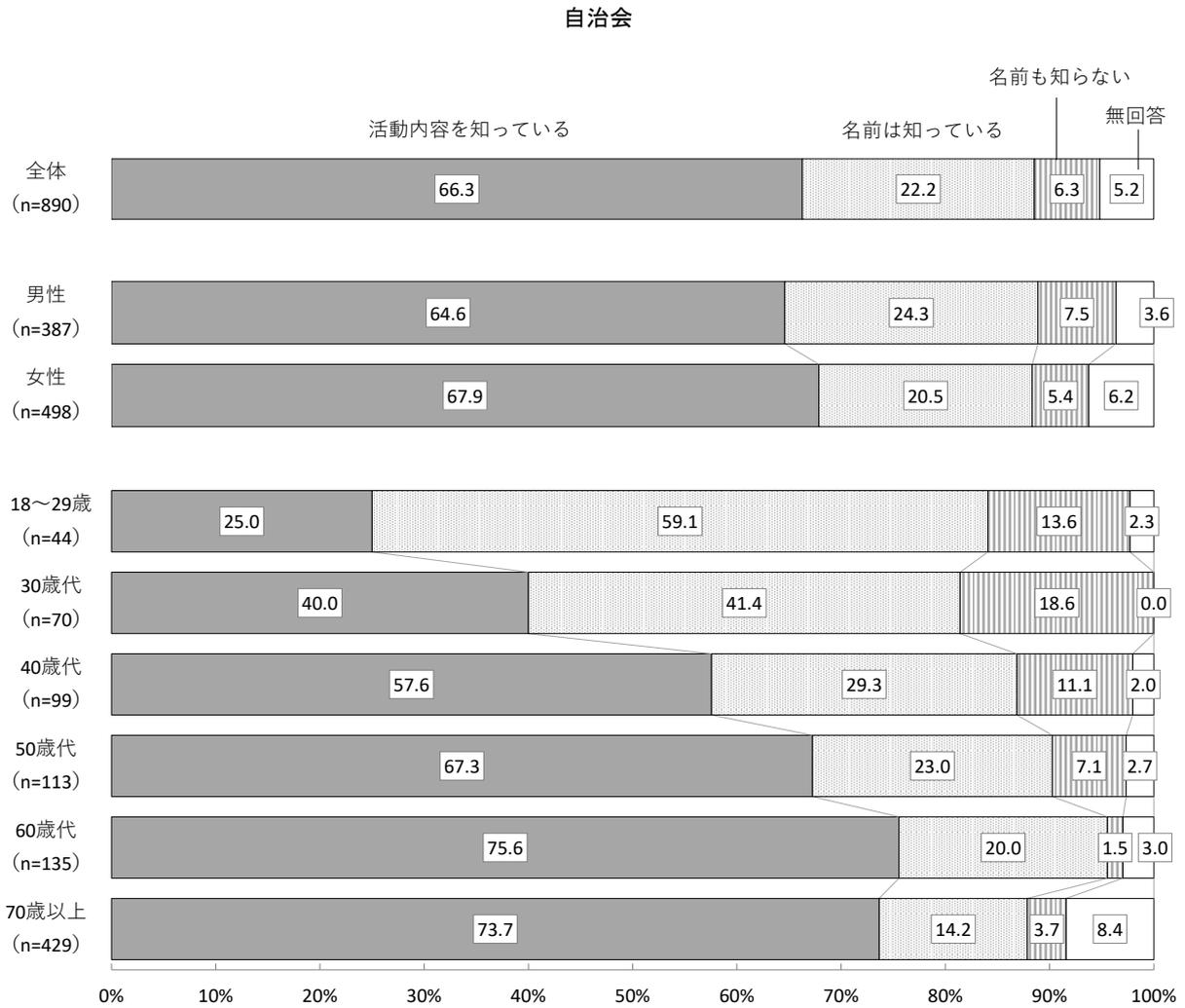
(%)

福祉活動主体	活動内容を知っている	名前は知っている	名前も知らない	無回答
1) 自治会	66.3	22.2	6.3	5.2
2) 校区社会福祉協議会	26.4	40.4	26.0	7.2
3) 民生委員・児童委員	31.6	45.2	17.0	6.3
4) 高齢者クラブ	18.4	43.5	30.3	7.8
5) シルバー人材センター	39.1	43.5	11.0	6.4
6) 城陽市社会福祉協議会	24.4	51.7	17.0	7.0
7) 地域包括支援センター	22.4	39.1	30.9	7.6
8) 在宅介護支援センター	16.7	43.4	32.0	7.9
9) 障がい者相談支援事業所	8.1	39.0	44.0	8.9
10) 食生活改善推進員協議会 (ヘルスメイト城陽)	6.3	21.7	64.0	8.0
11) 地域子育て支援センター	16.3	46.7	29.0	8.0

1) 自治会

全体では、「活動内容を知っている」が66.3%、「名前は知っている」が22.2%、「名前も知らない」が6.3%となっています。

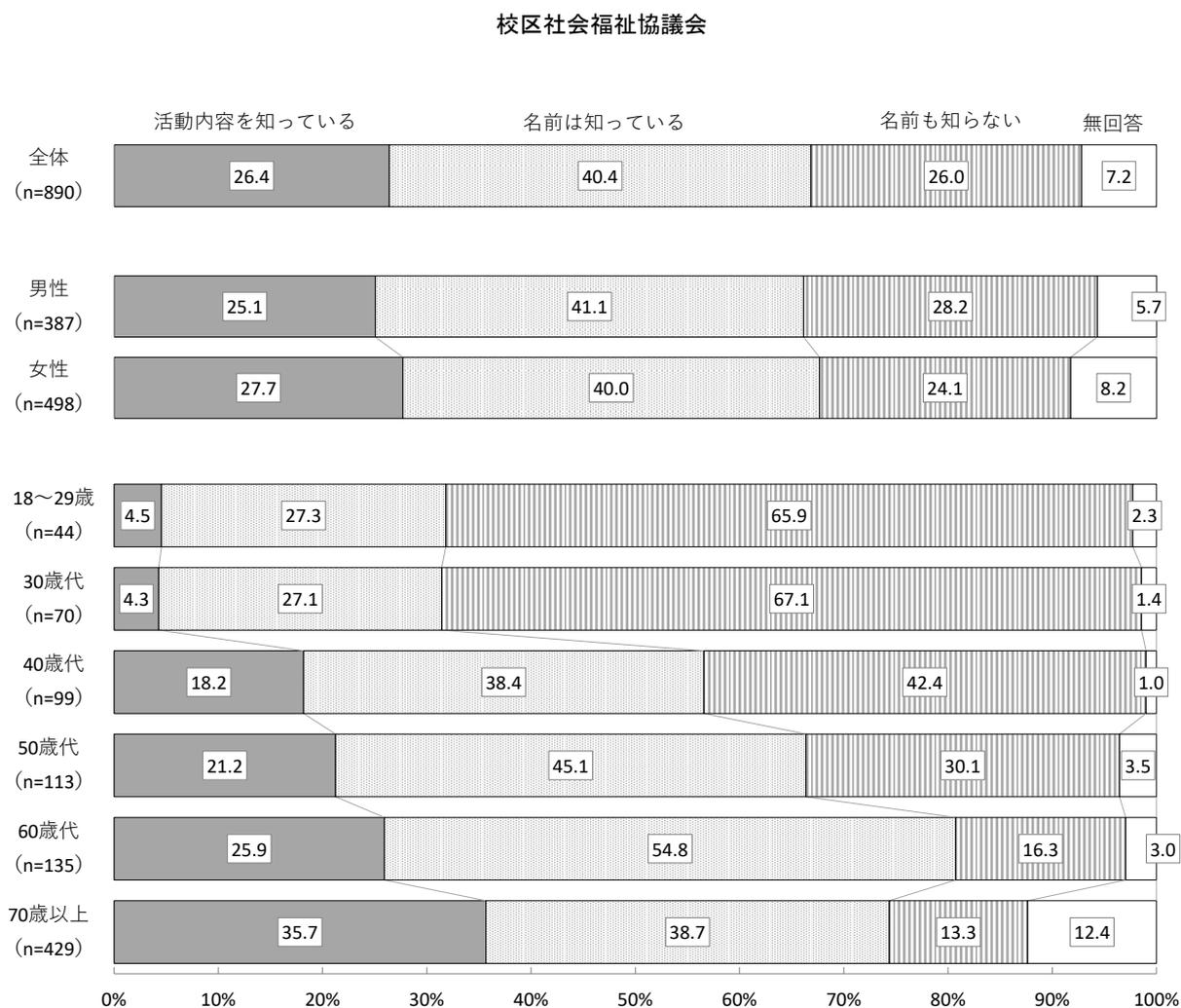
年齢別にみると、高い年齢層ほど「活動内容を知っている」が多い傾向にあります。一方、30歳代で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。



2) 校区社会福祉協議会

全体では、「活動内容を知っている」が 26.4%、「名前は知っている」が 40.4%、「名前も知らない」が 26.0%となっています。

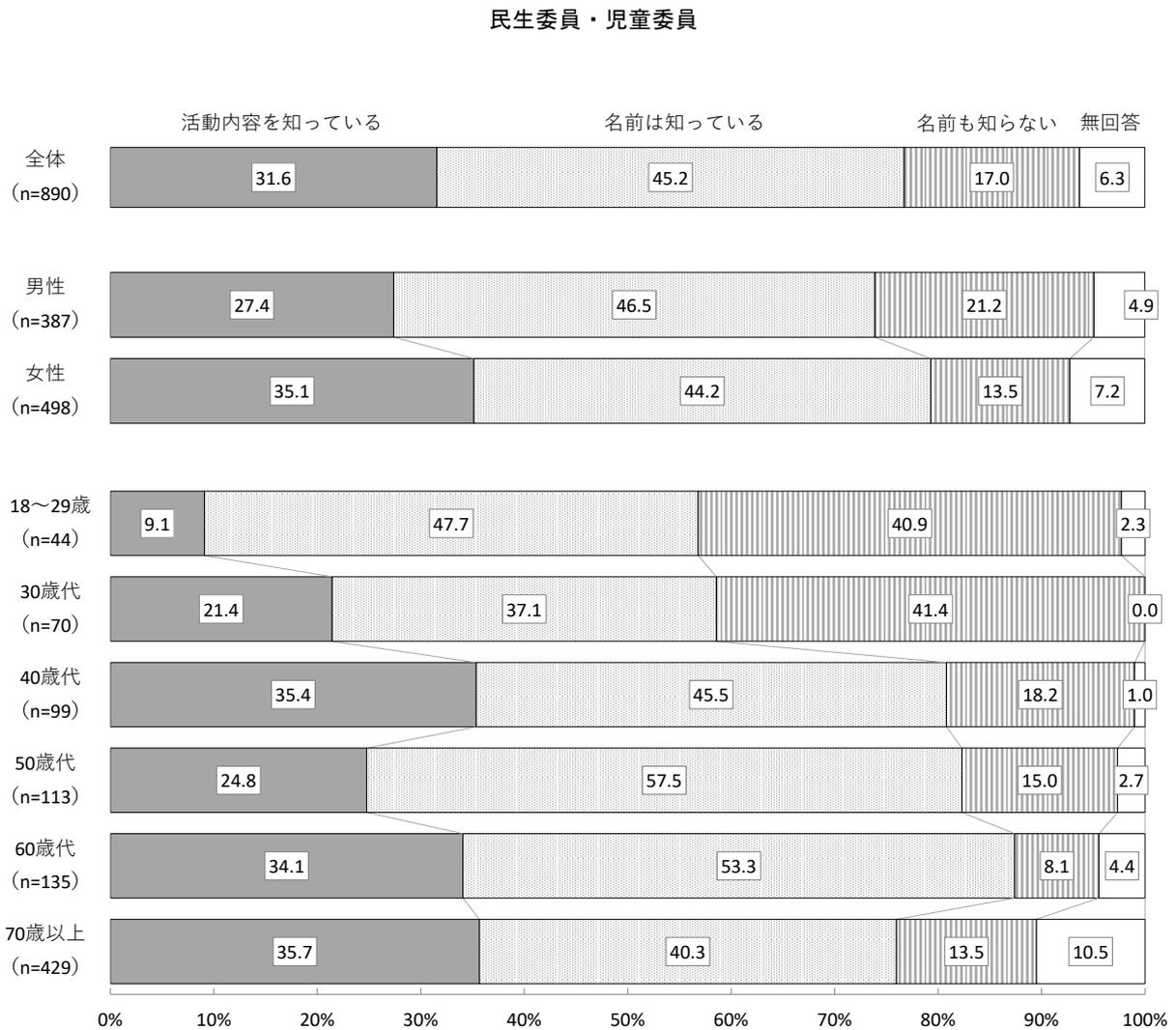
年齢別にみると、高い年齢層ほど「活動内容を知っている」が多い傾向にあります。一方、40歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多く、30歳代以下では6割以上となっています。



3) 民生委員・児童委員

全体では、「活動内容を知っている」が 31.6%、「名前は知っている」が 45.2%、「名前も知らない」が 17.0%となっています。

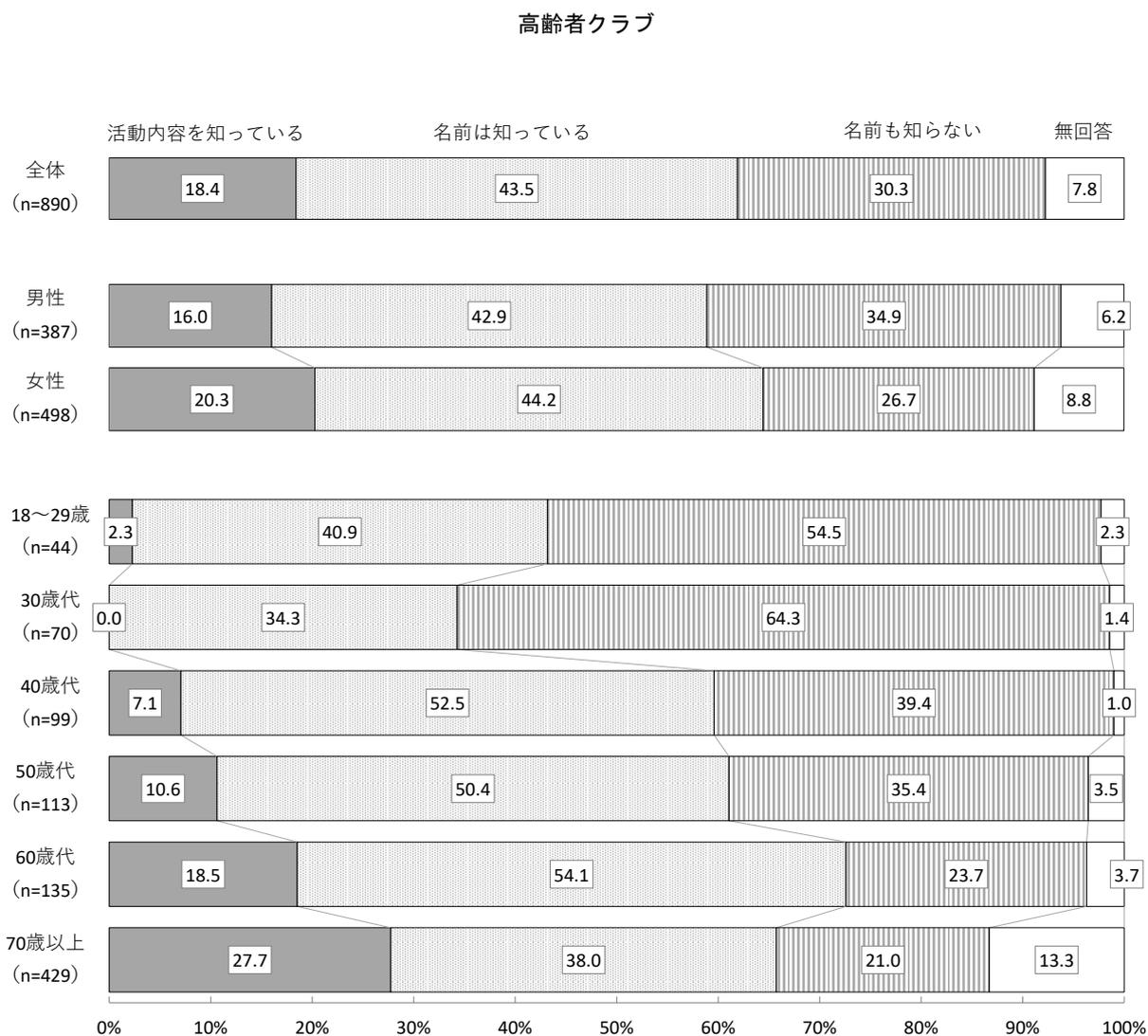
年齢別にみると、「活動内容を知っている」は 70 歳以上で最も多くなっています。一方、30 歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。



4) 高齢者クラブ

全体では、「活動内容を知っている」が 18.4%、「名前は知っている」が 43.5%、「名前も知らない」が 30.3%となっています。

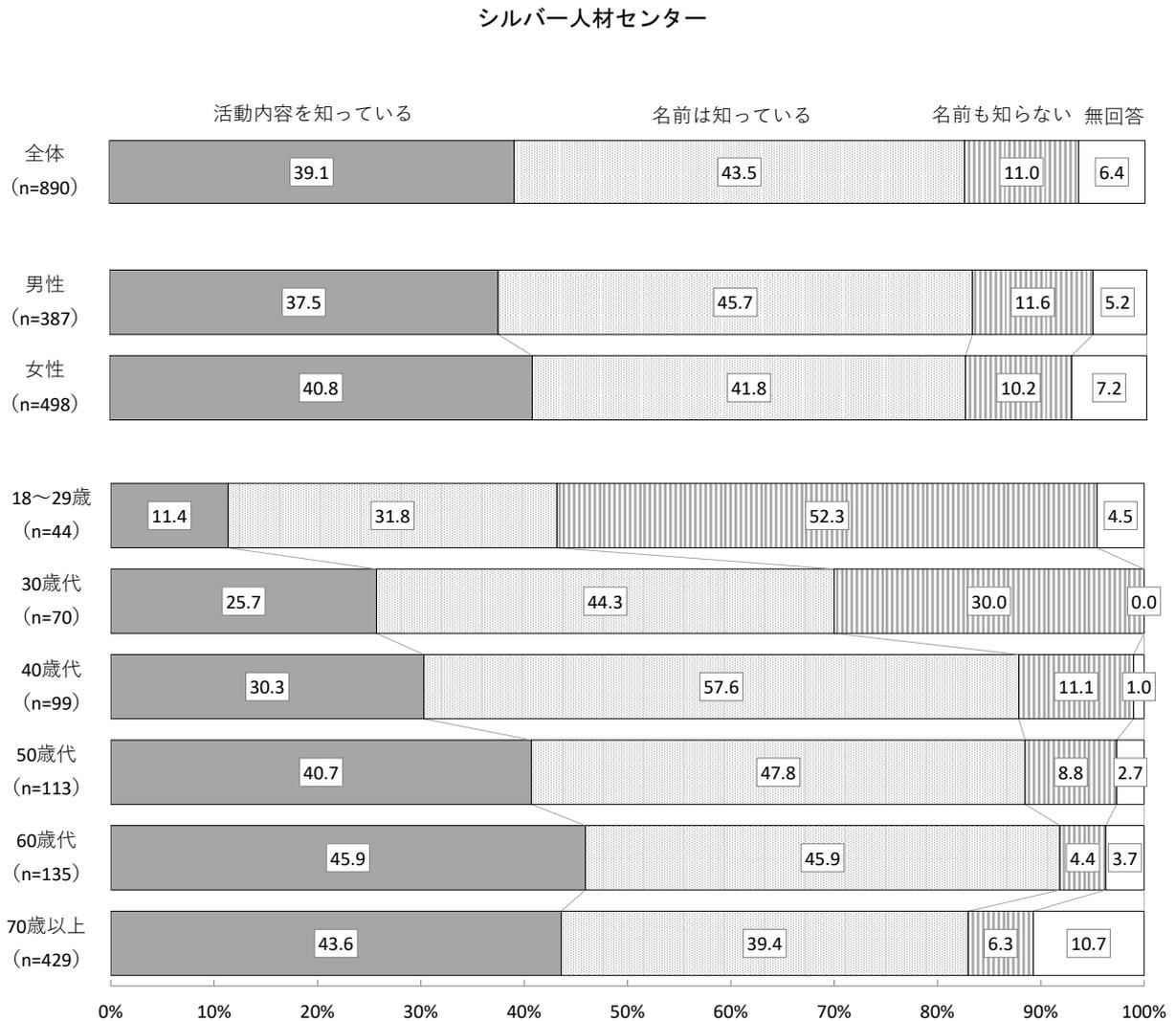
年齢別にみると、高い年齢層ほど「活動内容を知っている」が多い傾向にあります。一方、30歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多く、5割以上となっています。また、30歳代では「活動内容を知っている」は0%となっています。



5) シルバー人材センター

全体では、「活動内容を知っている」が 39.1%、「名前は知っている」が 43.5%、「名前も知らない」が 11.0%となっています。

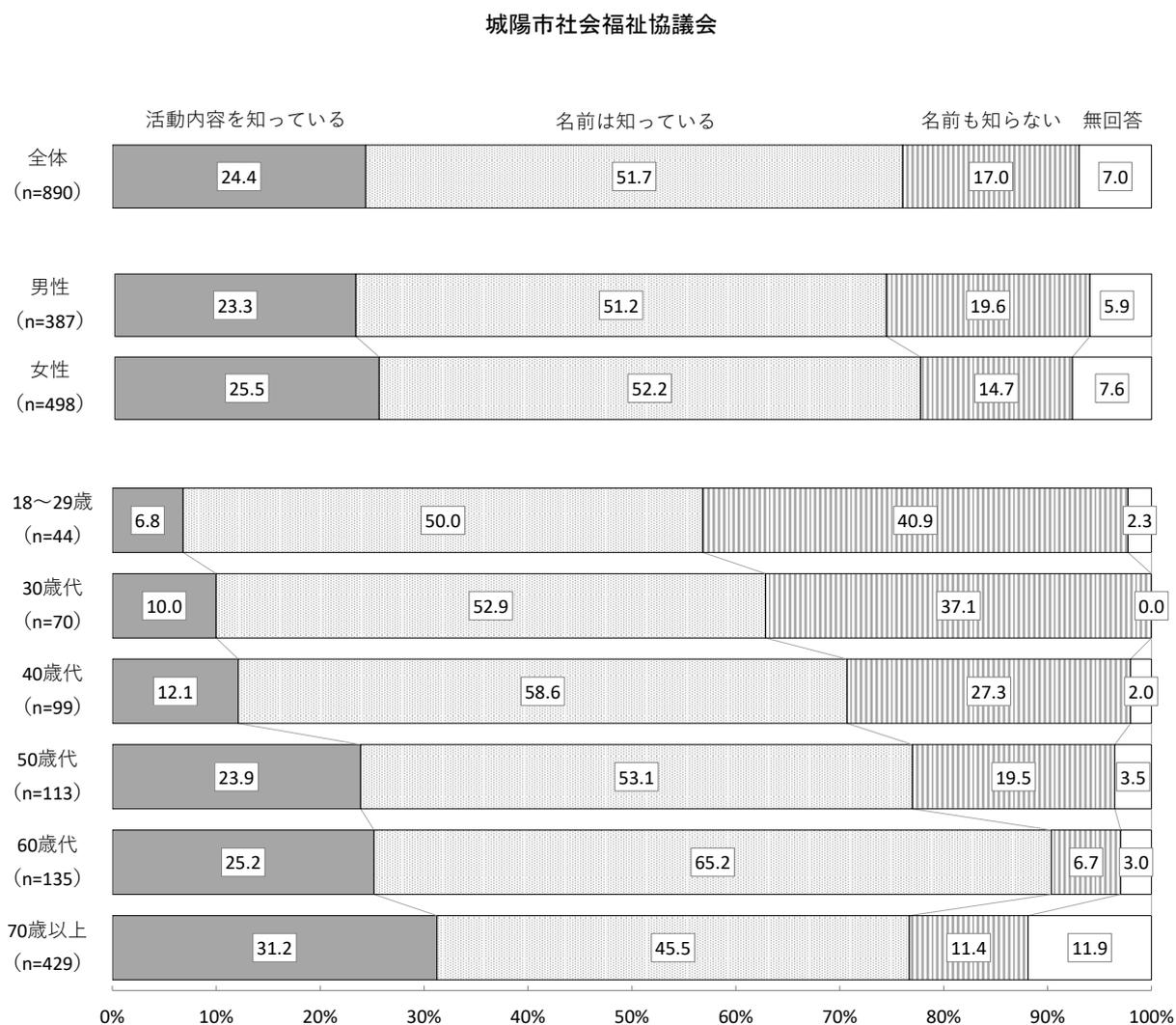
年齢別にみると、高い年齢層ほど「活動内容を知っている」が多い傾向にあります。一方、30歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多く、18～29歳では5割以上となっています。



6) 城陽市社会福祉協議会

全体では、「活動内容を知っている」が 24.4%、「名前は知っている」が 51.7%、「名前も知らない」が 17.0%となっています。

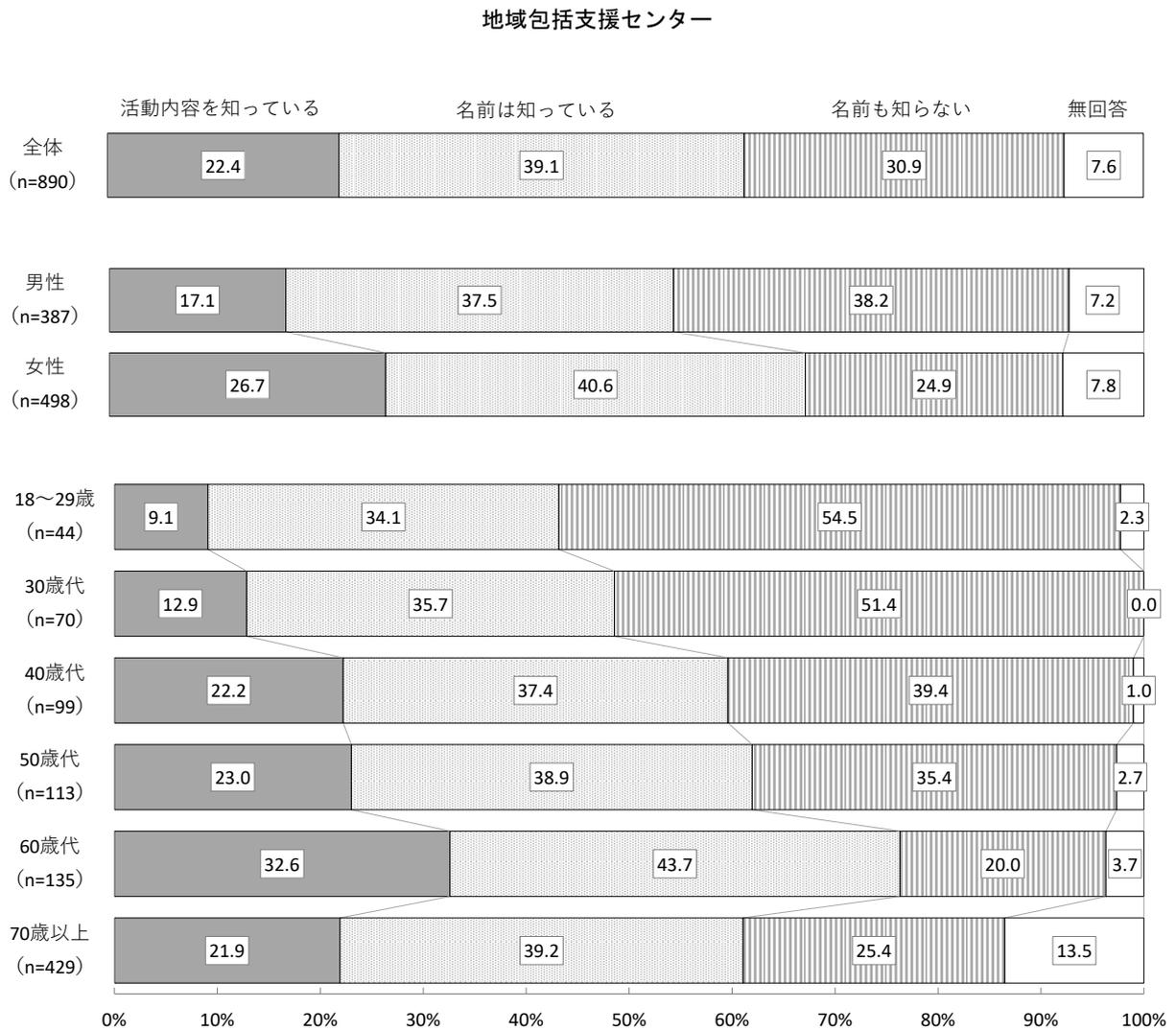
年齢別にみると、高い年齢層ほど「活動内容を知っている」が多くなっています。一方、40歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。



7) 地域包括支援センター

全体では、「活動内容を知っている」が 22.4%、「名前は知っている」が 39.1%、「名前も知らない」が 30.9%となっています。

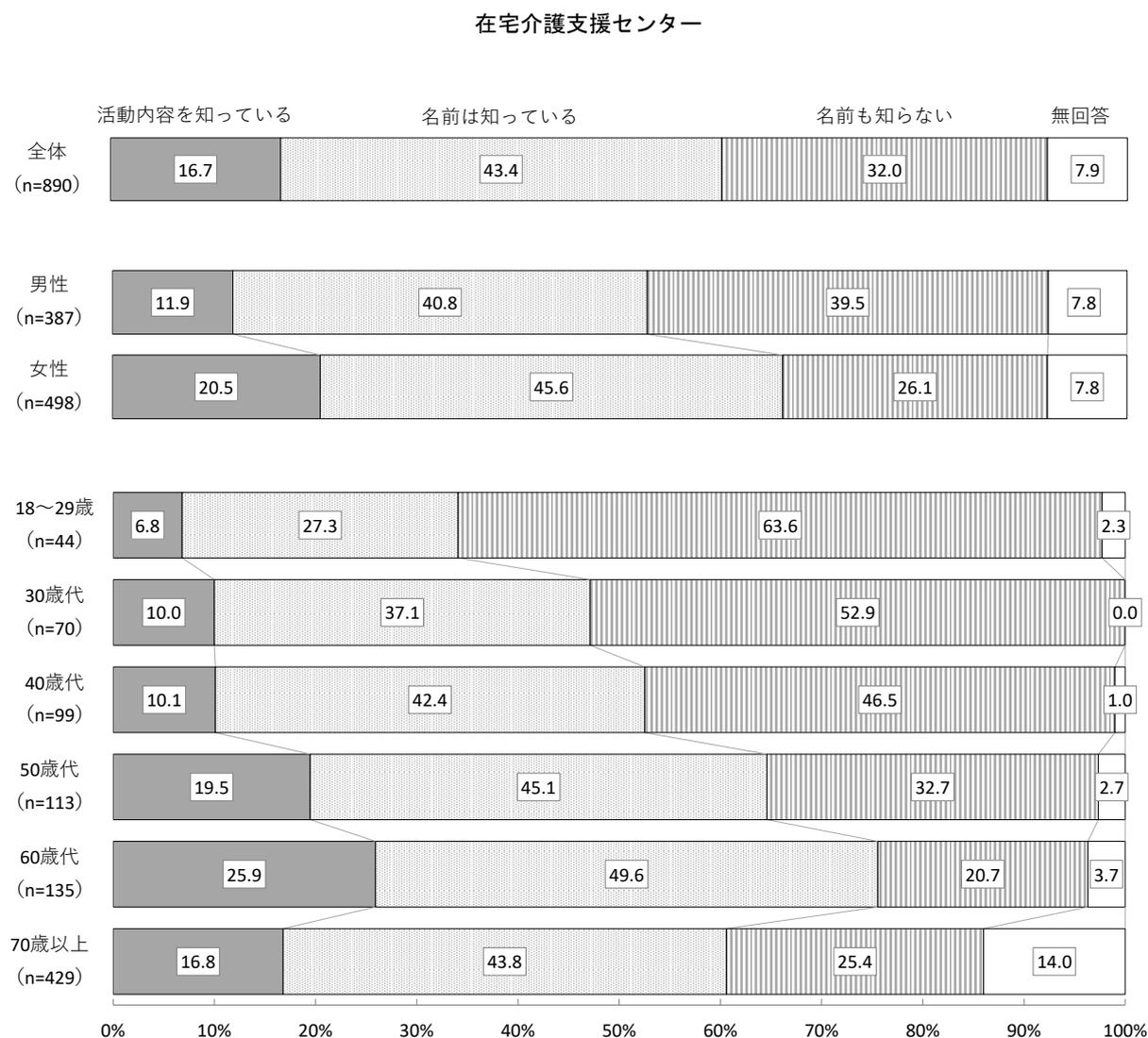
年齢別にみると、高い年齢層ほど「活動内容を知っている」が多い傾向にあります。一方、30歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多く、5割以上となっています。



8) 在宅介護支援センター

全体では、「活動内容を知っている」が 16.7%、「名前は知っている」が 43.4%、「名前も知らない」が 32.0%となっています。

年齢別にみると、高い年齢層ほど「活動内容を知っている」が多い傾向にあります。一方、40歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多く、30歳代以下では5割以上となっています。

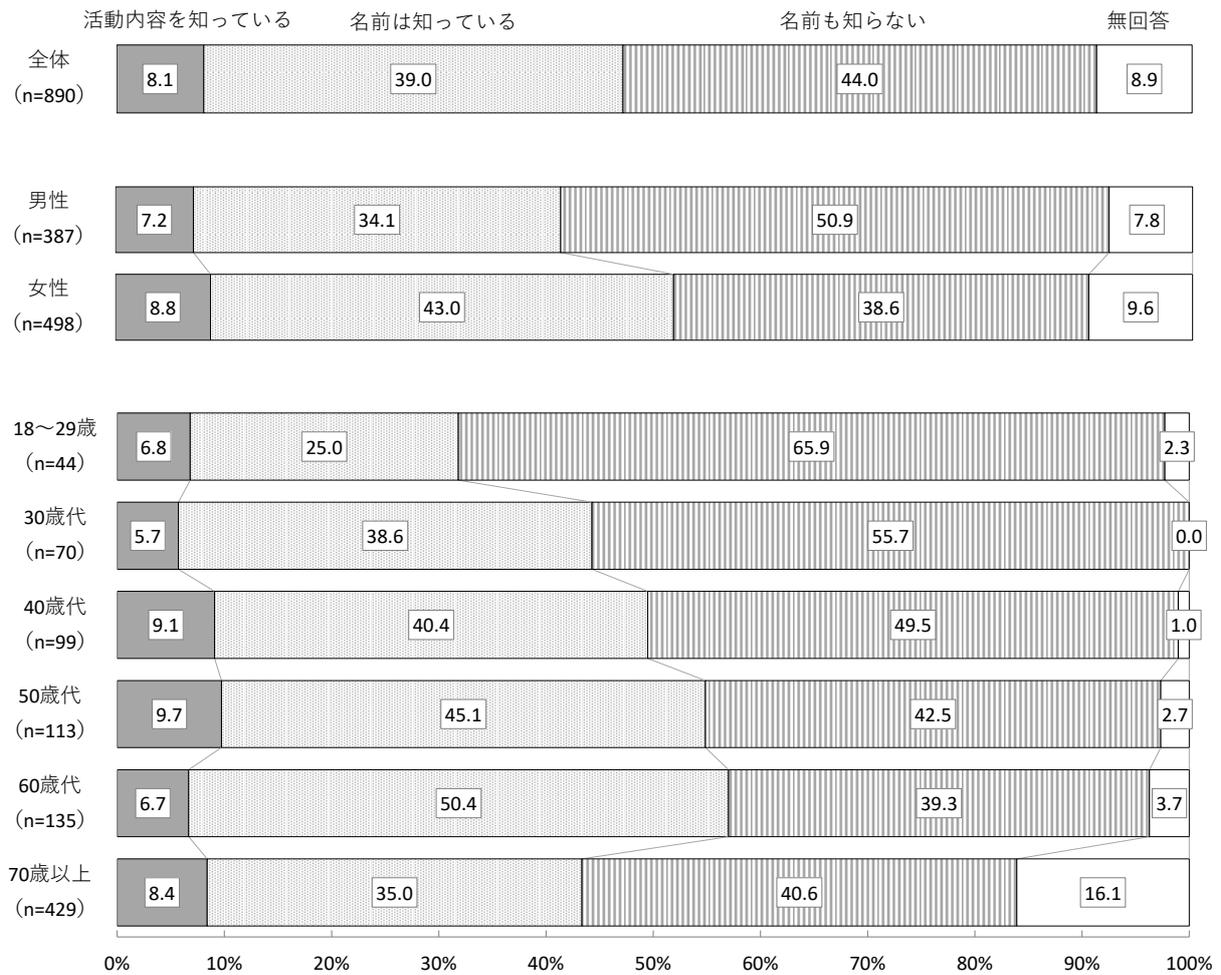


9) 障がい者相談支援事業所

全体では、「活動内容を知っている」が8.1%、「名前は知っている」が39.0%、「名前も知らない」が44.0%となっています。

年齢別にみると、「活動内容を知っている」は50歳代で最も多くなっています。一方、30歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多く、5割以上となっています。

障がい者相談支援事業所



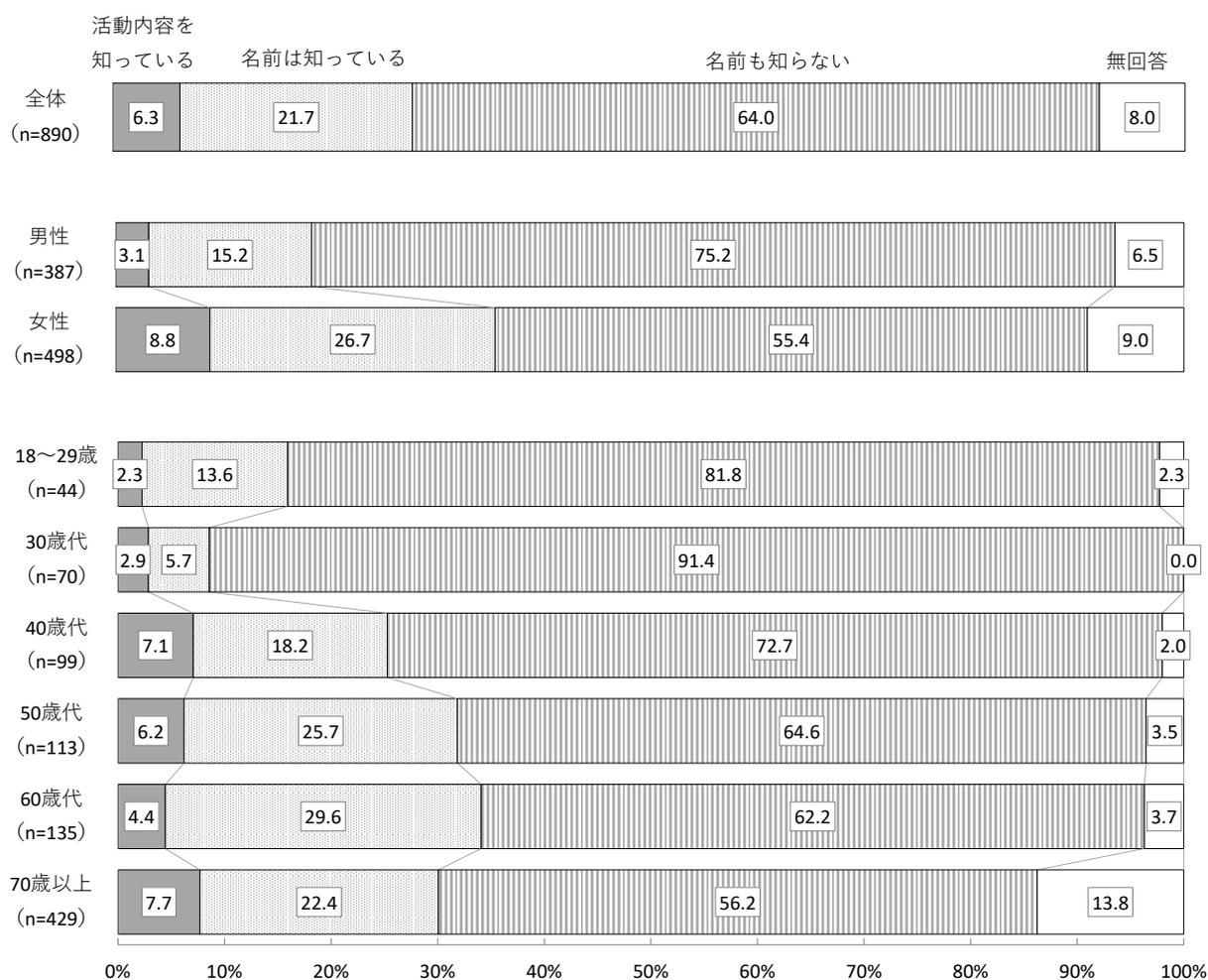
II-3 地域の福祉について

10) 食生活改善推進員協議会（ヘルスマイト城陽）

全体では、「活動内容を知っている」が6.3%、「名前は知っている」が21.7%、「名前も知らない」が64.0%となっています。

年齢別にみると、「活動内容を知っている」は70歳以上で最も多くなっています。一方、30歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。

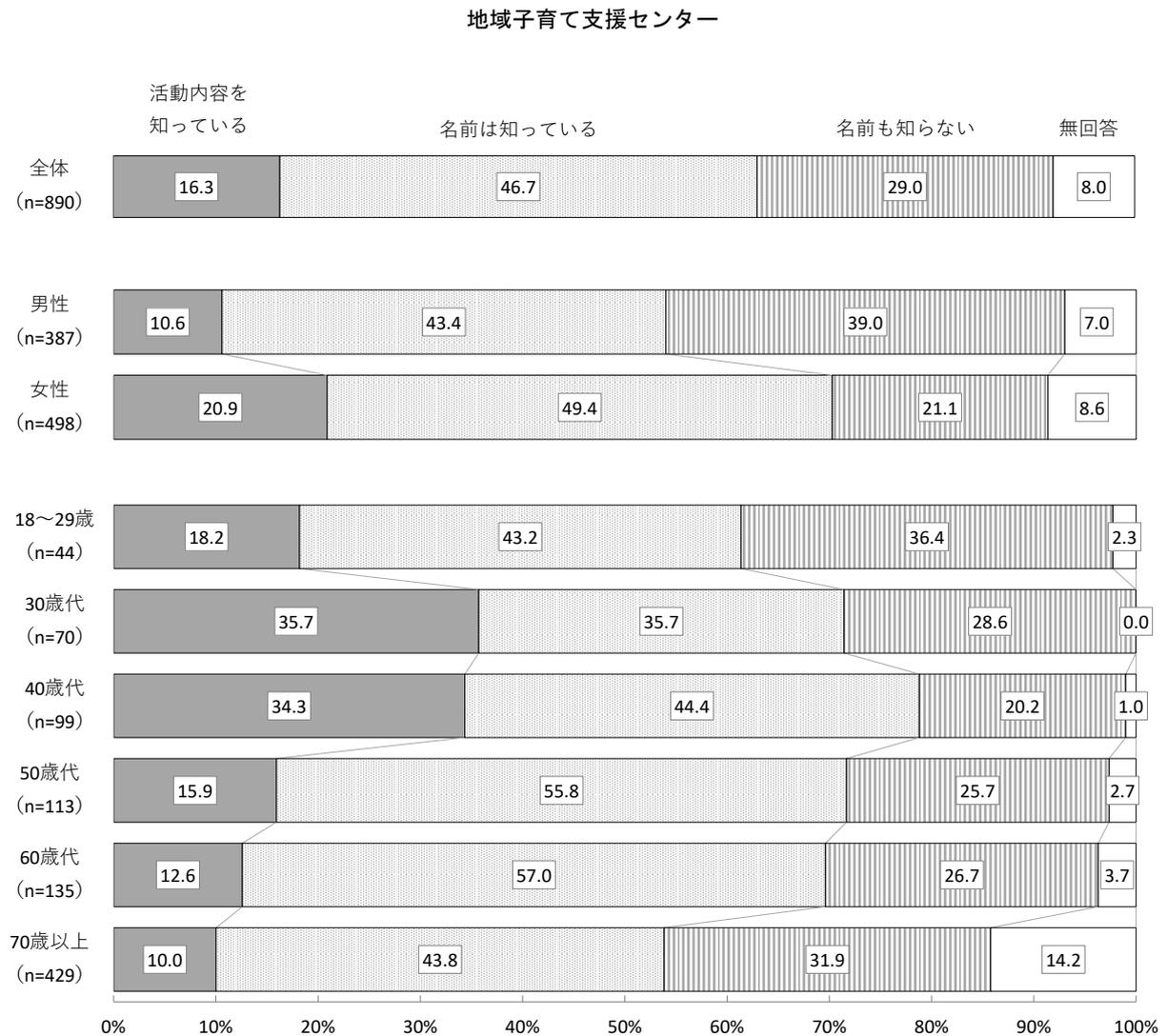
食生活改善推進員協議会（ヘルスマイト城陽）



11) 地域子育て支援センター

全体では、「活動内容を知っている」が 16.3%、「名前は知っている」が 46.7%、「名前も知らない」が 29.0%となっています。

年齢別にみると、30歳代と40歳代で「活動内容を知っている」が全体に比べて特に多くなっています。一方、「名前も知らない」は18～29歳で最も多くなっています。

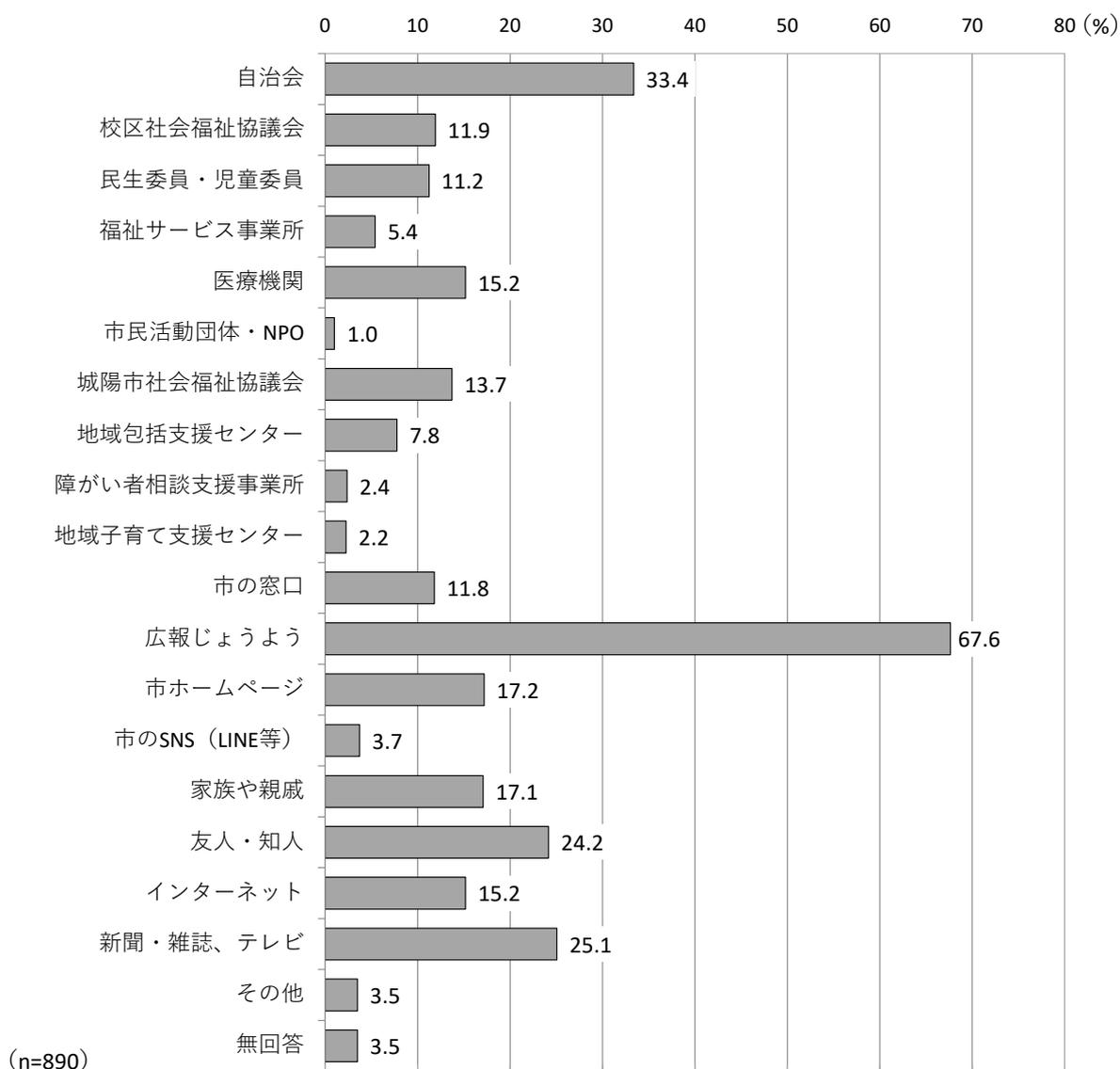


〔5〕福祉サービスの情報源

問19 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから得ていますか。当てはまるものを5つまで選んで○をつけてください。

福祉サービスに関する情報をどこから得ているかについては、「広報じょうよう」が67.6%と最も多く、次いで、「自治会」が33.4%、「新聞・雑誌、テレビ」が25.1%、「友人・知人」が24.2%となっています。

福祉サービスの情報源



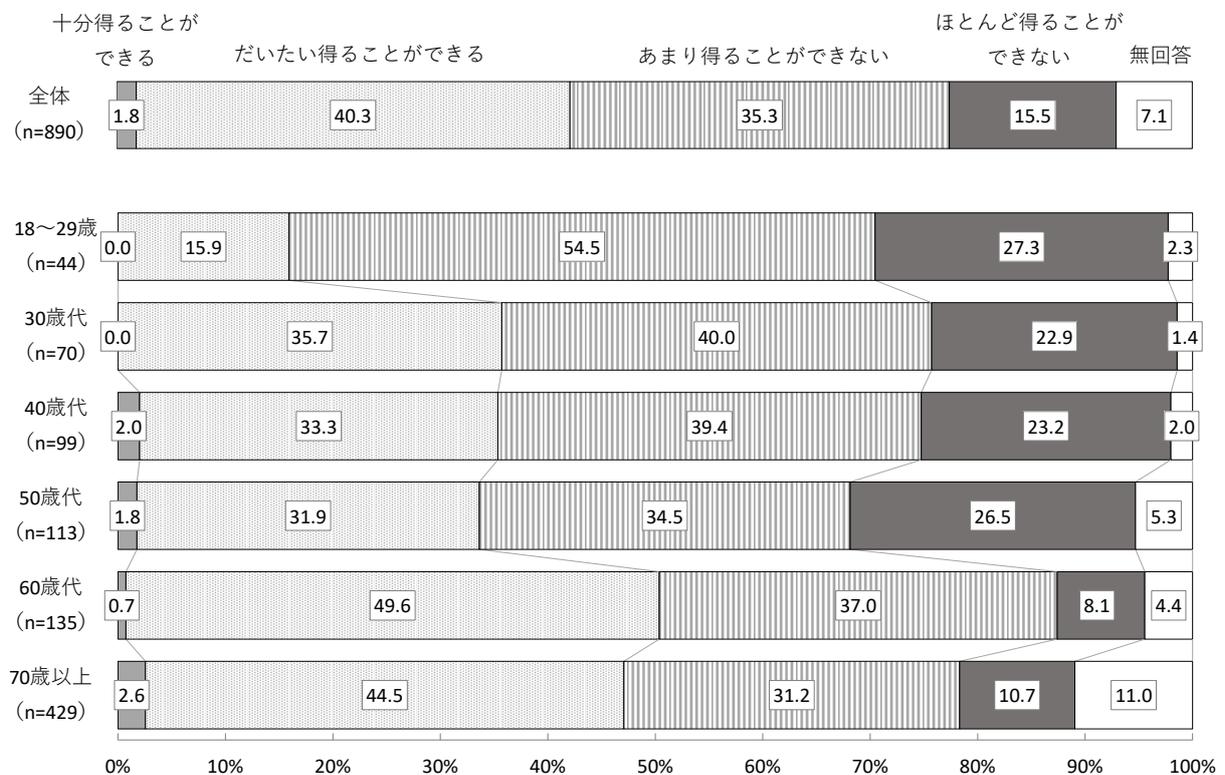
〔6〕福祉サービスに関する情報は得られているか

問20 あなたは福祉サービスに関する情報を得ることができていると思いますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

福祉サービスに関する情報を得ることができているかについては、全体では、「十分得ることができる」と「だいたい得ることができる」を合わせた『得ることができる』が42.1%、「あまり得ることができない」と「ほとんど得ることができない」を合わせた『得ることができない』が50.8%となっています。

年齢別にみると、50歳代以下で『得ることができない』が全体に比べて特に多くなっています。

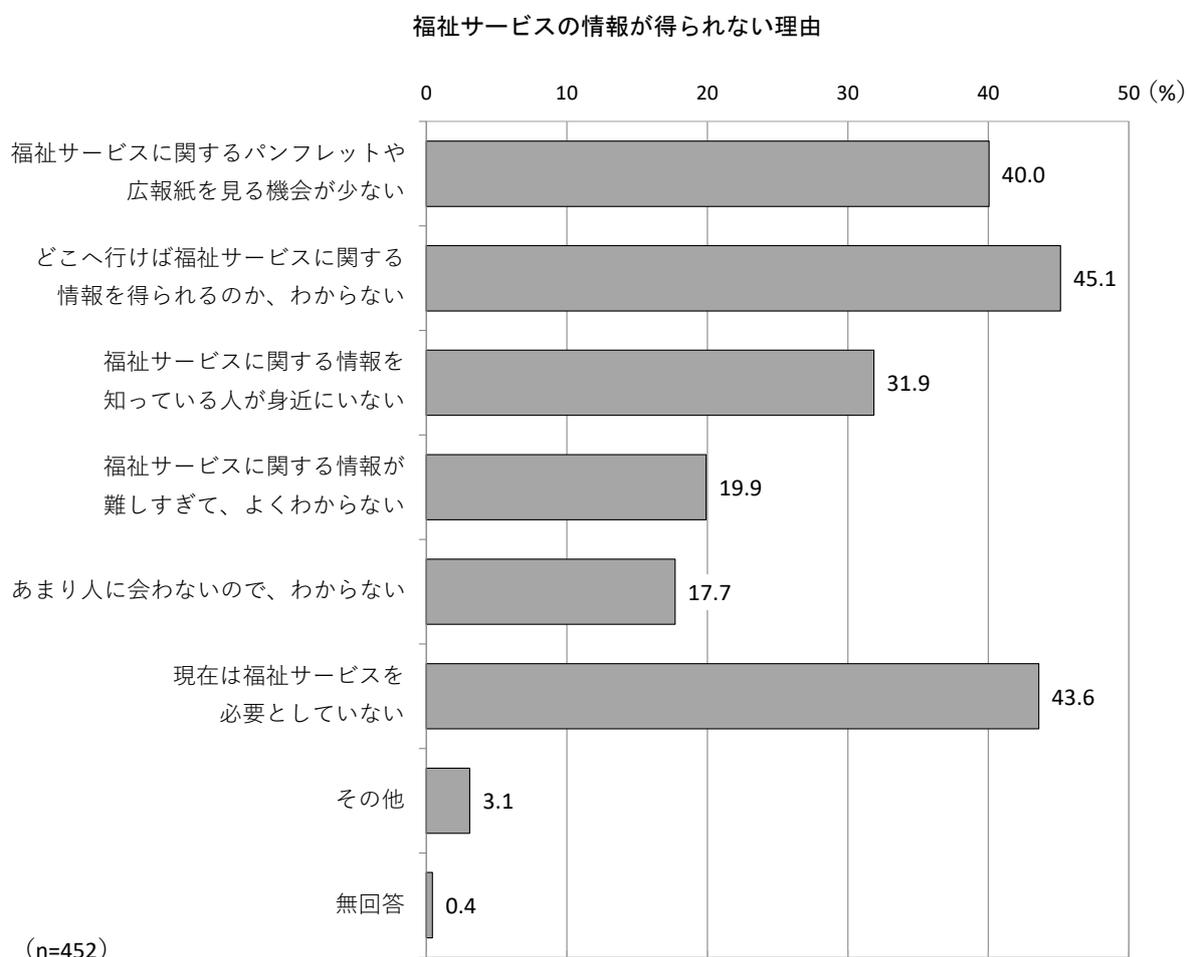
福祉サービスに関する情報は得られているか



〔7〕福祉サービスの情報が得られない理由

問21 問20で「あまり得ることができない」、「ほとんど得ることができない」を選んだ方におたずねします。福祉サービスに関する情報を得ることができないのはなぜですか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

福祉サービスに関する情報を得ることができない理由については、全体では、「どこへ行けば福祉サービスに関する情報を得られるのか、わからない」が45.1%と最も多く、次いで「福祉サービスに関するパンフレットや広報紙を見る機会が少ない」が40.0%、「福祉サービスに関する情報を知っている人が身近にいない」が31.9%、「福祉サービスに関する情報が難しすぎて、よくわからない」が19.9%となっています。一方、「現在は福祉サービスを必要としていない」が43.6%となっています。

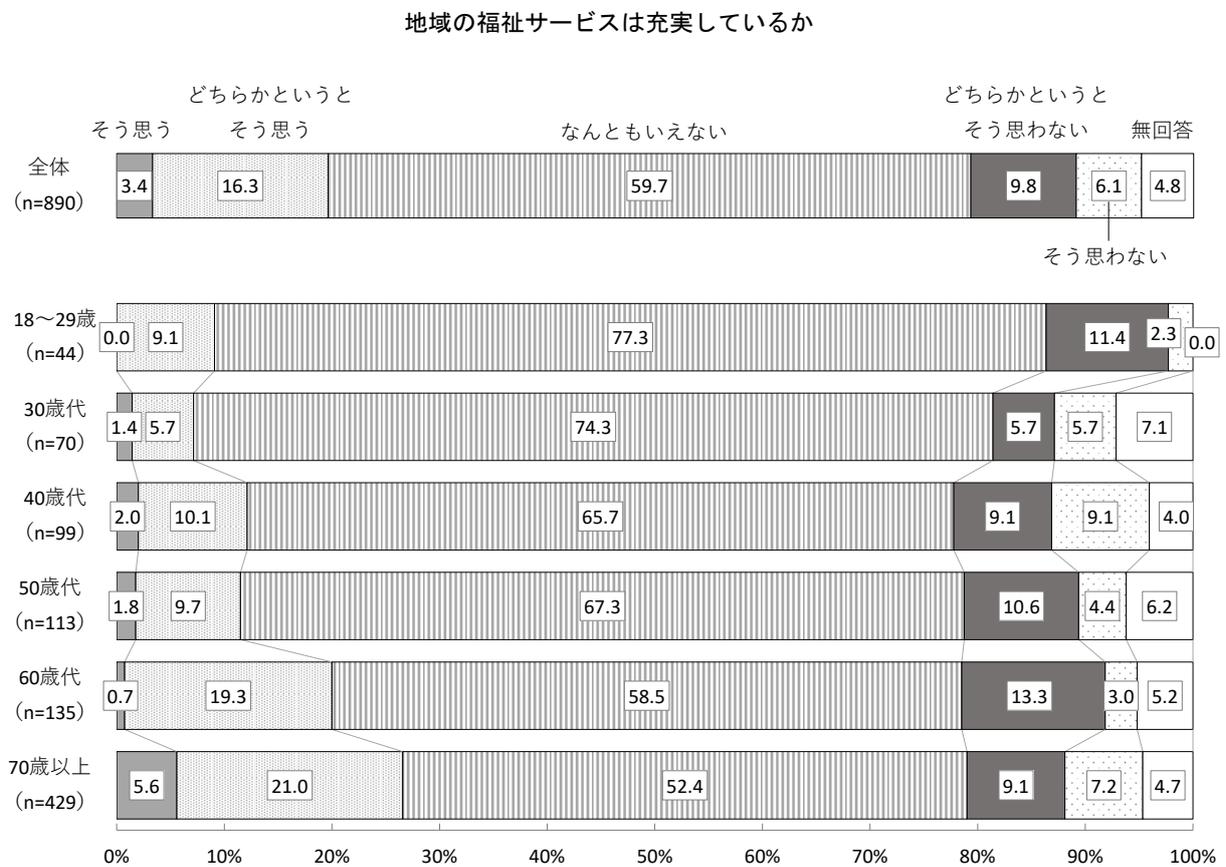


〔8〕地域の福祉サービスは充実しているか

問22 あなたは地域の福祉サービスについて、充実していると思いますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

地域の福祉サービスは充実しているかについては、全体では、「なんともいえない」が59.7%と最も多くなっています。また、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『思う』が19.7%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』が15.9%となっています。

年齢別にみると、高い年齢層ほど『思う』が多い傾向にあります。



4 悩みや困りごとについて

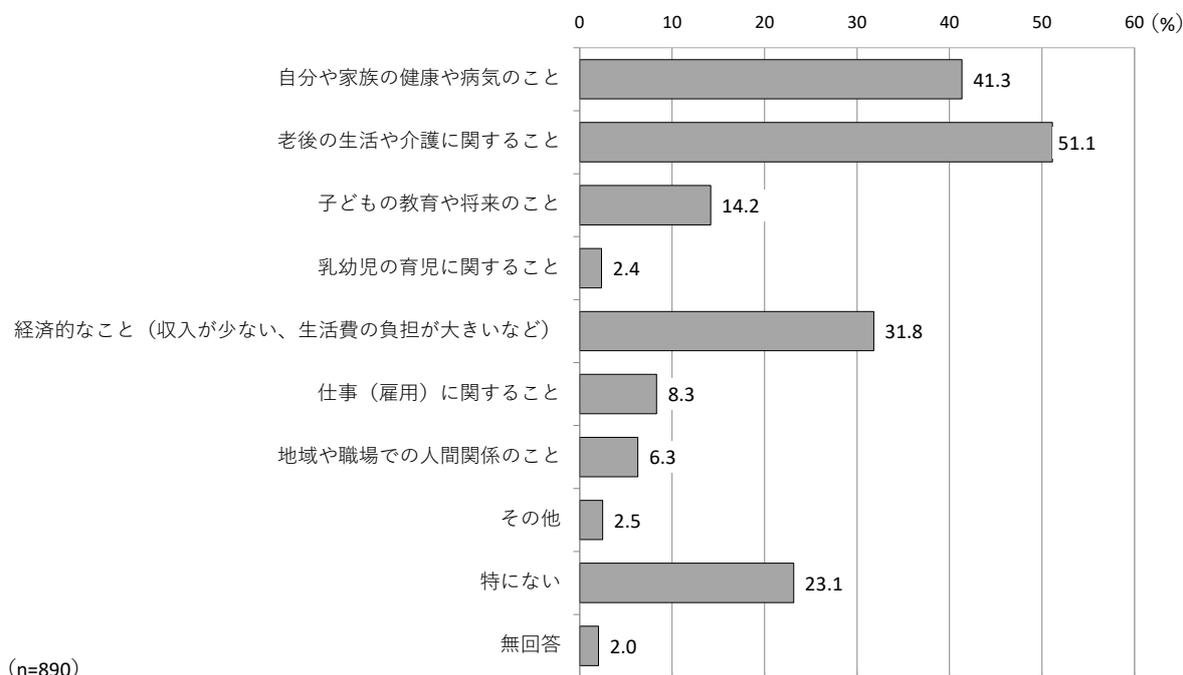
〔1〕現在の生活上の困りごと

問23 現在、あなた自身、生活上の困りごとがありますか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

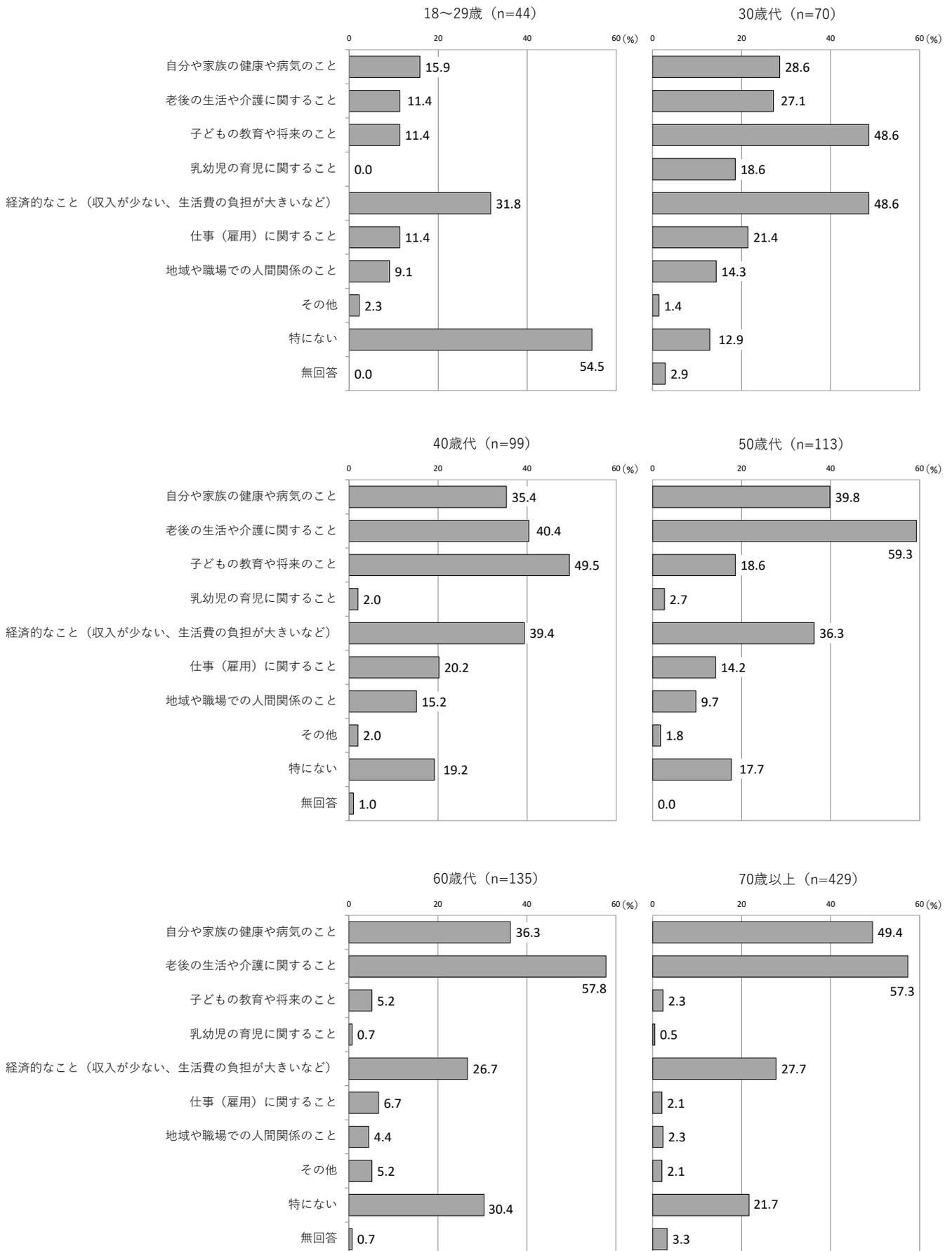
現在の生活上の困りごとについては、全体では、「老後の生活や介護に関すること」が51.1%と最も多く、次いで「自分や家族の健康や病気のこと」が41.3%、「経済的なこと（収入が少ない、生活費の負担が大きいなど）」が31.8%、「子どもの教育や将来のこと」が14.2%となっています。

年齢別にみると、高い年齢層ほど「自分や家族の健康や病気のこと」と「老後の生活や介護に関すること」が多い傾向にありますが、「経済的なこと（収入が少ない、生活費の負担が大きいなど）」の割合は、どの年齢層においてもおよそ3～5割となっています。また、30歳代と40歳代で「子どもの教育や将来のこと」と「仕事（雇用）に関すること」が、30歳代で「経済的なこと（収入が少ない、生活費の負担が大きいなど）」が全体に比べて特に多くなっています。

現在の生活上の困りごと



現在の生活上の困りごと（年齢別）



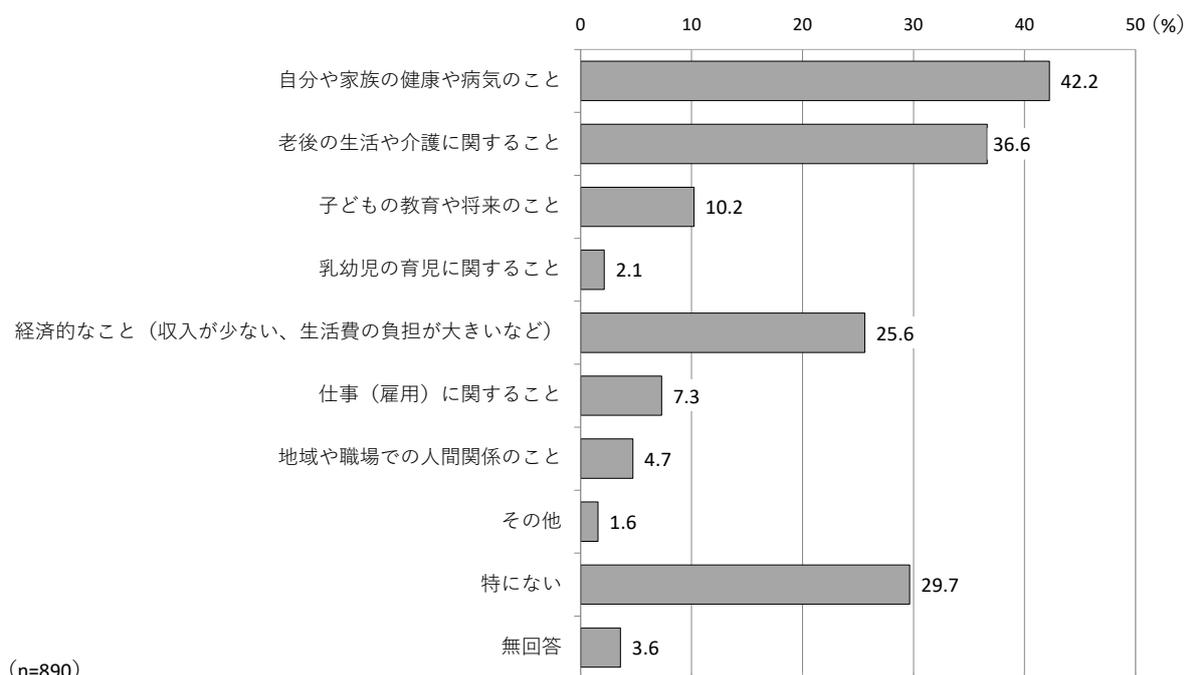
〔2〕新型コロナウイルス感染症拡大より前の生活上の困りごと

問24 新型コロナウイルス感染症の拡大より前に、あなた自身、生活上の困りごとがありましたか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

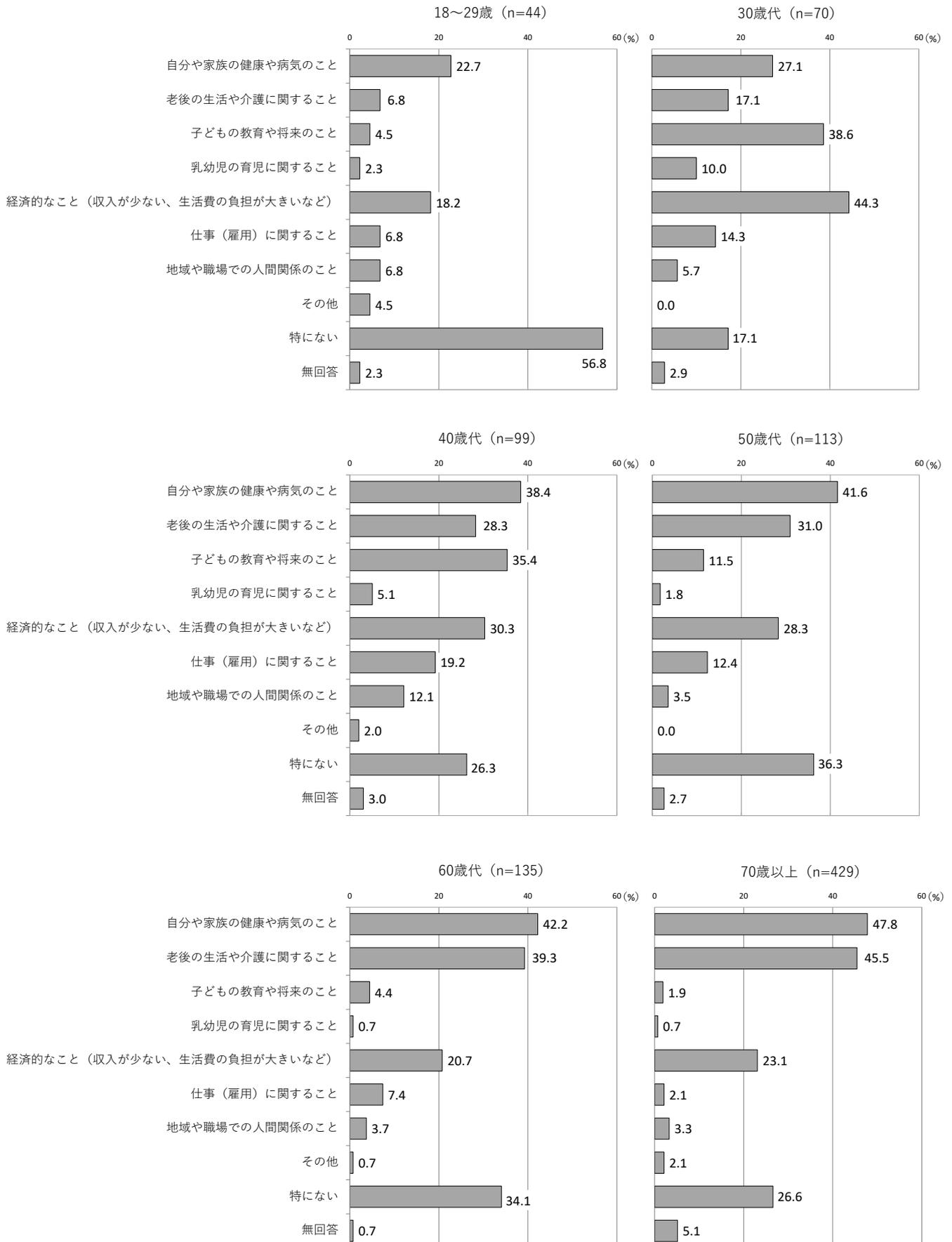
新型コロナウイルス感染症拡大以前の生活上の困りごとについては、全体では、「自分や家族の健康や病気のこと」が42.2%と最も多く、次いで「老後の生活や介護に関すること」が36.6%、「経済的なこと（収入が少ない、生活費の負担が大きいなど）」が25.6%、「子どもの教育や将来のこと」が10.2%となっています。

年齢別にみると、高い年齢層ほど「自分や家族の健康や病気のこと」と「老後の生活や介護に関すること」が多くなっていますが、「経済的なこと（収入が少ない、生活費の負担が大きいなど）」の割合は、どの年齢層においてもおよそ2～4割となっています。また、30歳代と40歳代で「子どもの教育や将来のこと」が、30歳代で「経済的なこと（収入が少ない、生活費の負担が大きいなど）」が、40歳代で「仕事（雇用）に関すること」が全体に比べて特に多くなっています。

新型コロナウイルス感染症拡大より前の生活上の困りごと



新型コロナウイルス感染症拡大より前の生活上の困りごと（年齢別）

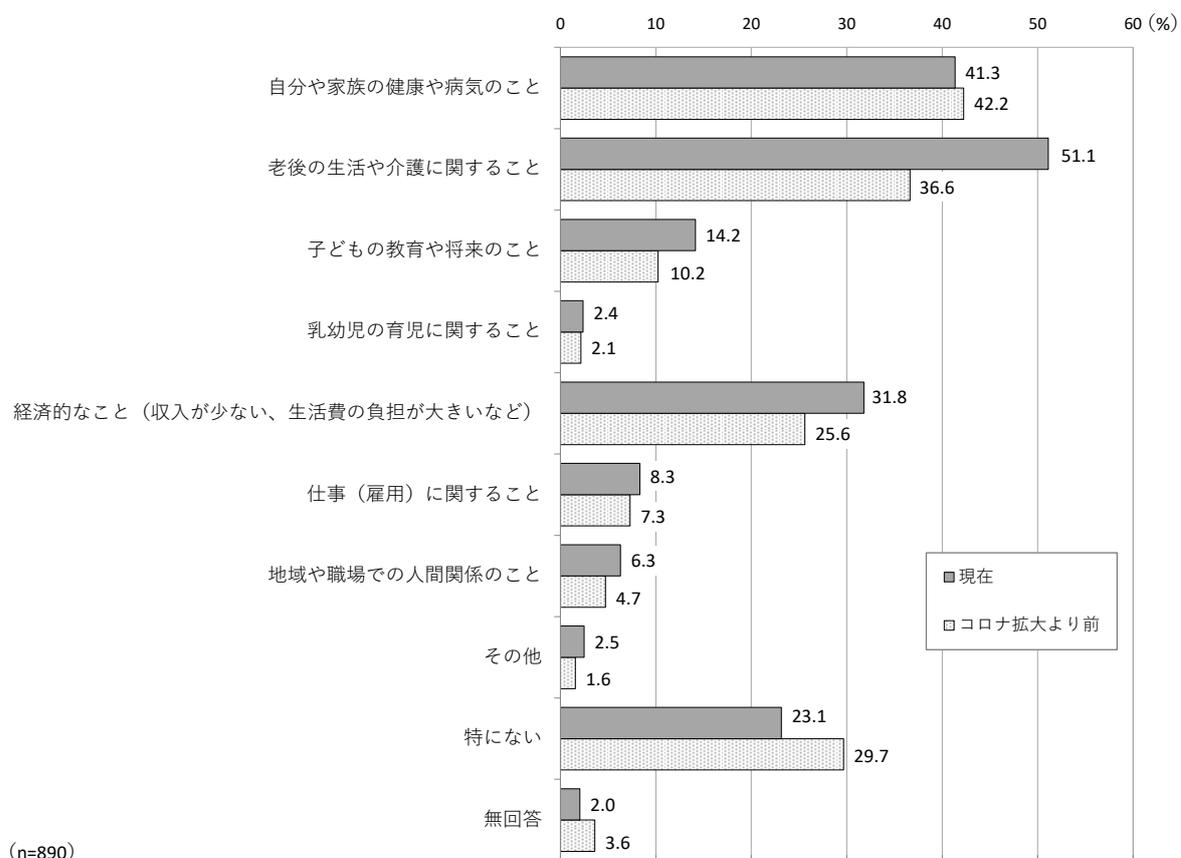


〔1〕現在の生活上の困りごと（問 23）

〔2〕新型コロナウイルス感染症拡大より前の生活上の困りごと（問 24）

現在の生活上の困りごとと新型コロナウイルス感染症拡大より前の生活上の困りごとを比較すると、現在の方が「特にない」の割合は低くなっており、また「自分や家族の健康や病気のこと」を除くすべての項目において、割合が高くなっています。特に「老後の生活や介護に関すること」において、現在の方が 14.5 ポイント高くなっています。

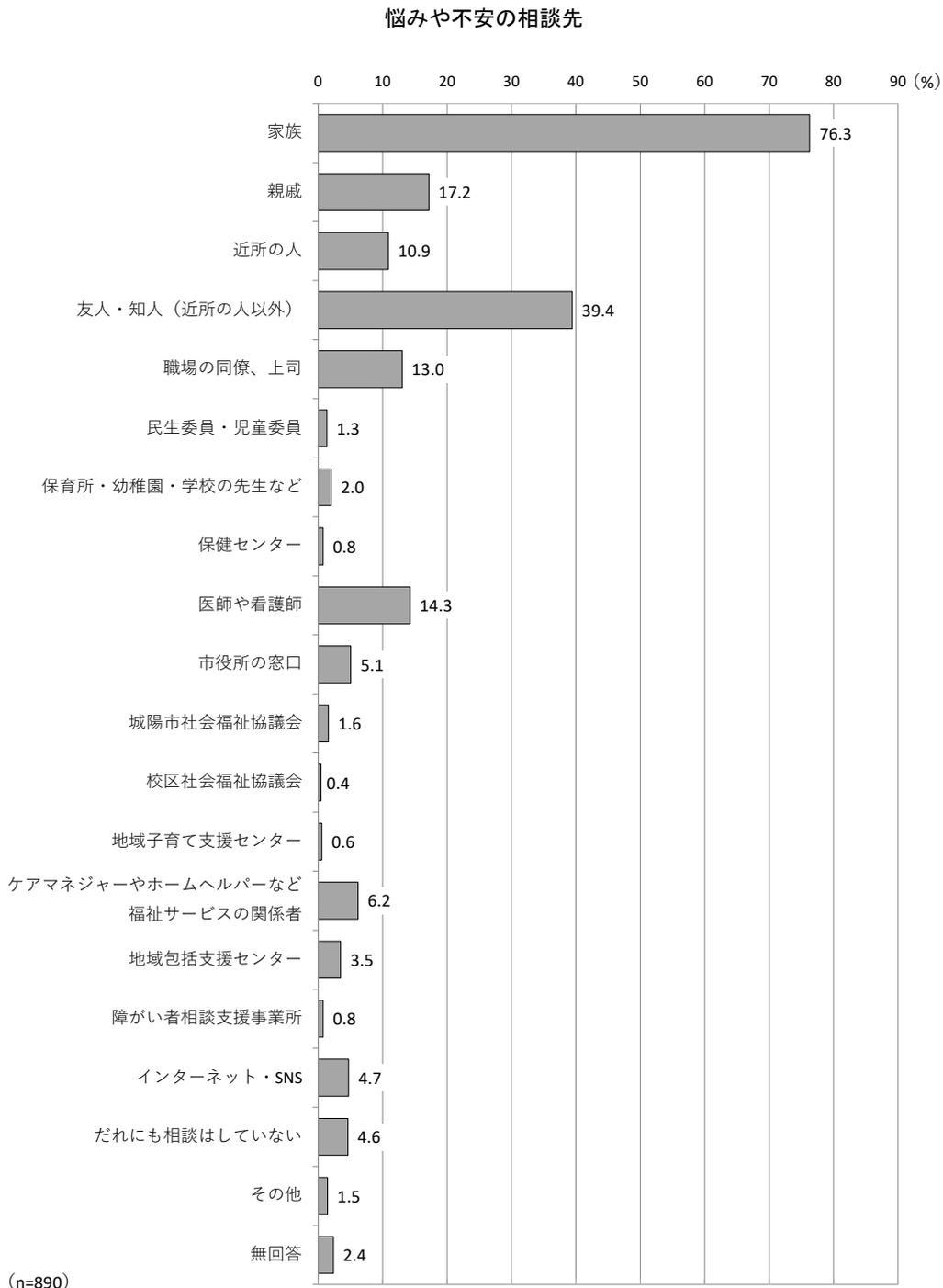
生活上の困りごと（現在と新型コロナウイルス感染症拡大より前との比較）



〔3〕 悩みや不安の相談先

問25 ふだん悩みや不安があるときに、どのような人（場所）に相談をしていますか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

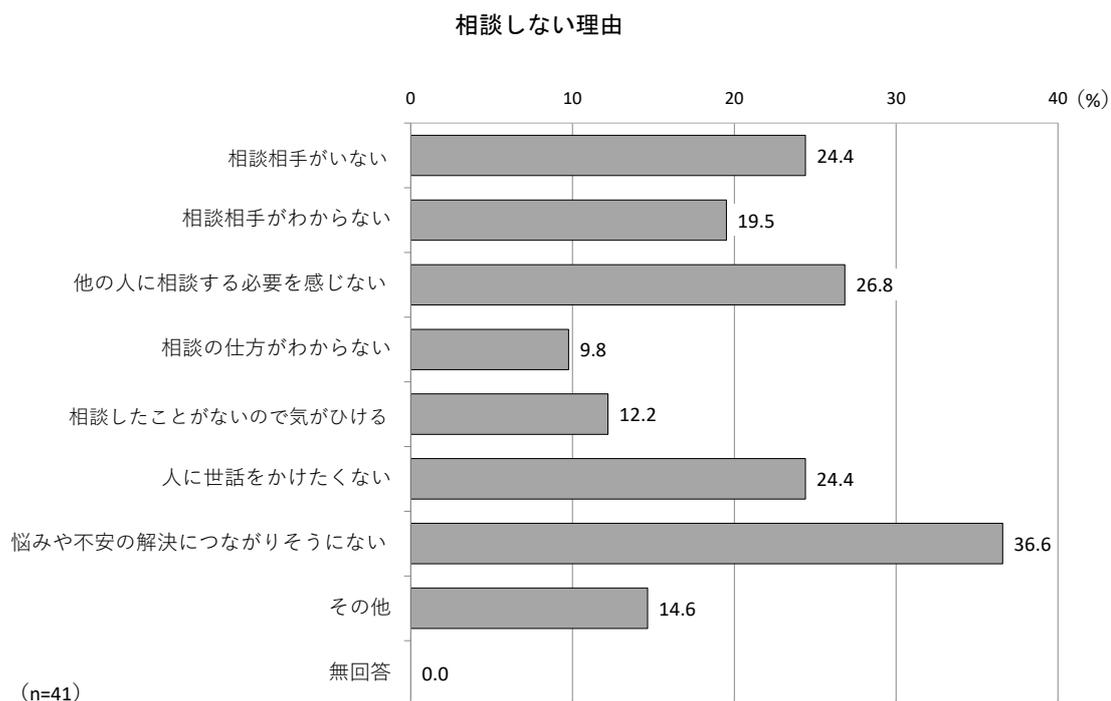
ふだん悩みや不安があるときに、どのような人（場所）に相談をしているかについては、「家族」が76.3%と最も多く、次いで、「友人・知人（近所の人以外）」が39.4%、「親戚」が17.2%、「医師や看護師」が14.3%となっています。一方、「だれにも相談はしていない」は4.6%となっています。



〔4〕 相談しない理由

問25-1 問25で「だれにも相談はしていない」を選んだ方におたずねします。
その理由は何ですか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

だれにも相談していない理由については、「悩みや不安の解決につながりそうにない」が36.6%と最も多く、次いで、「他の人に相談する必要を感じない」が26.8%、「相談相手がない」、「人に世話をかけたくない」が24.4%となっています。

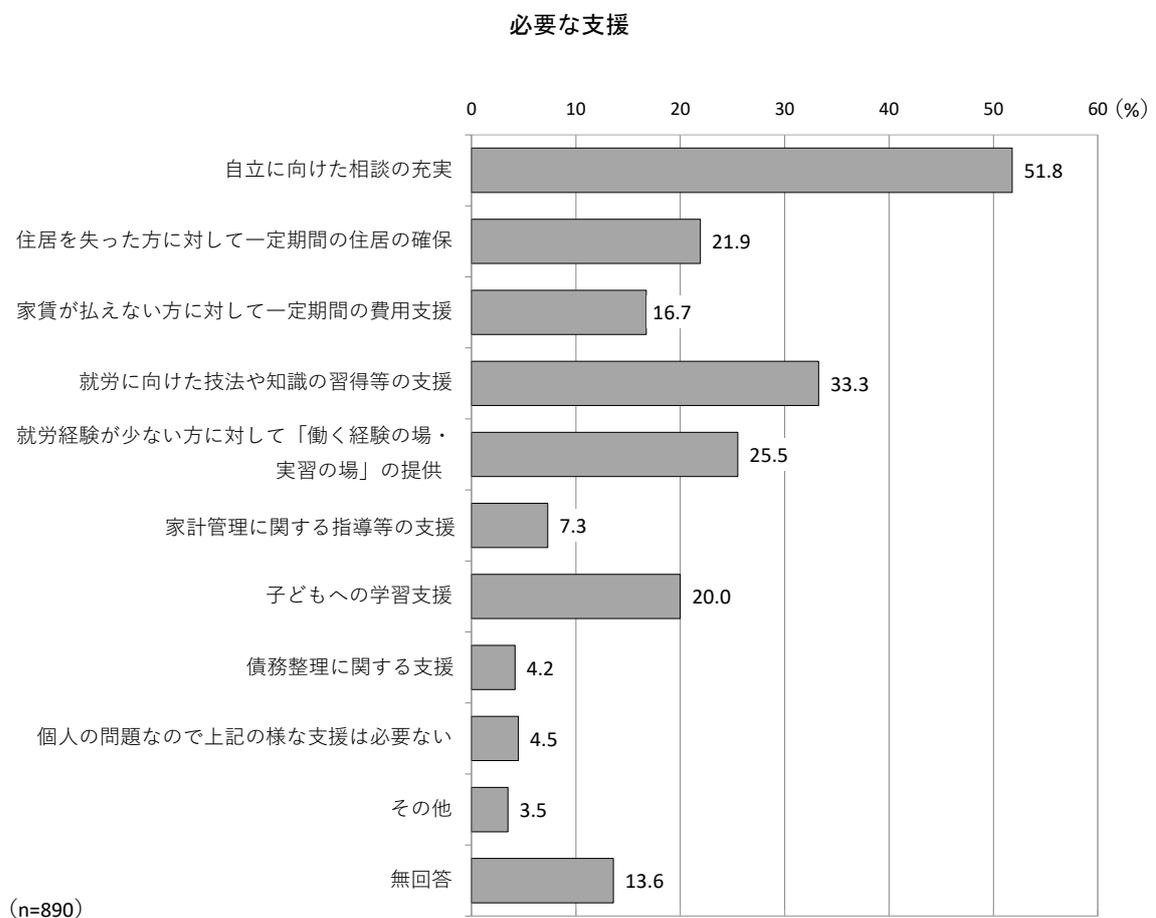


※他の間に比べて母数が少なくなっています。

〔5〕必要な支援

問26 仕事や生活に困っている方に対してどのような支援があれば良いと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

仕事や生活に困っている方に対してどのような支援があれば良いと思うかについては、「自立に向けた相談の充実」が51.8%と最も多く、次いで、「就労に向けた技法や知識の習得等の支援」が33.3%、「就労経験が少ない方に対して「働く経験の場・実習の場」の提供」が25.5%、「住居を失った方に対して一定期間の住居の確保」が21.9%となっています。一方、「個人の問題なので上記の様な支援は必要ない」は4.5%となっています。



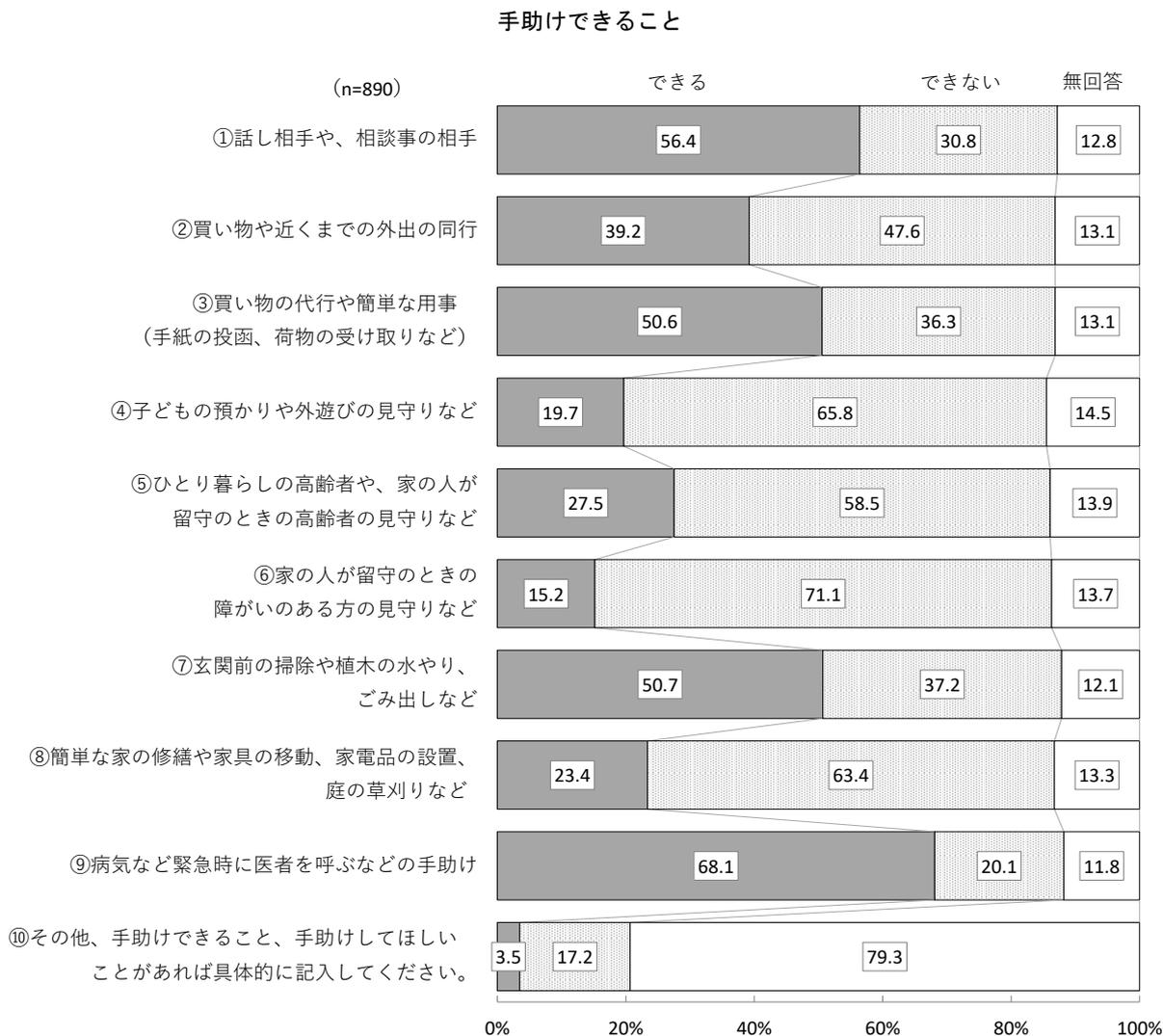
5 地域での支え合いについて

〔1〕手助けできること、手助けしてほしいこと

問27 あなたは、以下のような事柄について、ご近所の方に対して手助けなどをすることができますか。また、ご近所の方から手助けをしてほしいですか。①～⑩のそれぞれについて、お答えください。（（1）手助けできること、（2）手助けしてほしいことの両方に○をつけてください。）

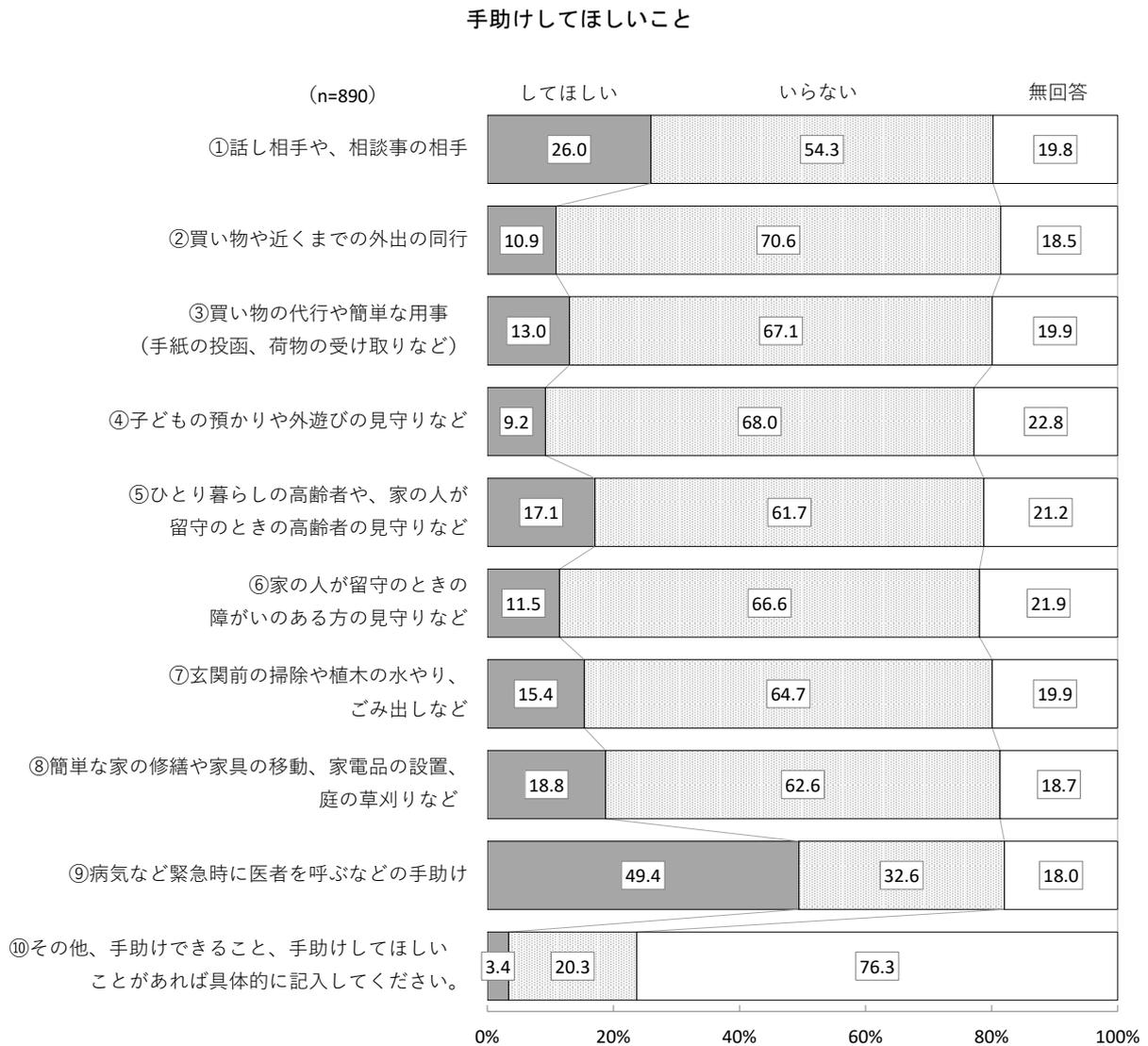
（1）手助けできること

「できる」は、「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」が 68.1%で最も多く、次いで、「話し相手や、相談事の相手」が 56.4%、「玄関前の掃除や植木の水やり、ごみ出しなど」が 50.7%、「買い物の代行や簡単な用事（手紙の投函、荷物の受け取りなど）」が 50.6%となっています。全体的に、「できない」が「できる」に比べて多くなっています。



(2) 手助けしてほしいこと

「してほしい」は、「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」が49.4%で最も多く、次いで、「話し相手や、相談事の相手」が26.0%、「簡単な家の修繕や家具の移動、家電品の設置、庭の草刈りなど」が18.8%、「ひとり暮らしの高齢者や、家の人留守のときの高齢者の見守りなど」が17.1%となっています。「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」を除くすべての項目において、「いない」が「してほしい」に比べて多くなっています。

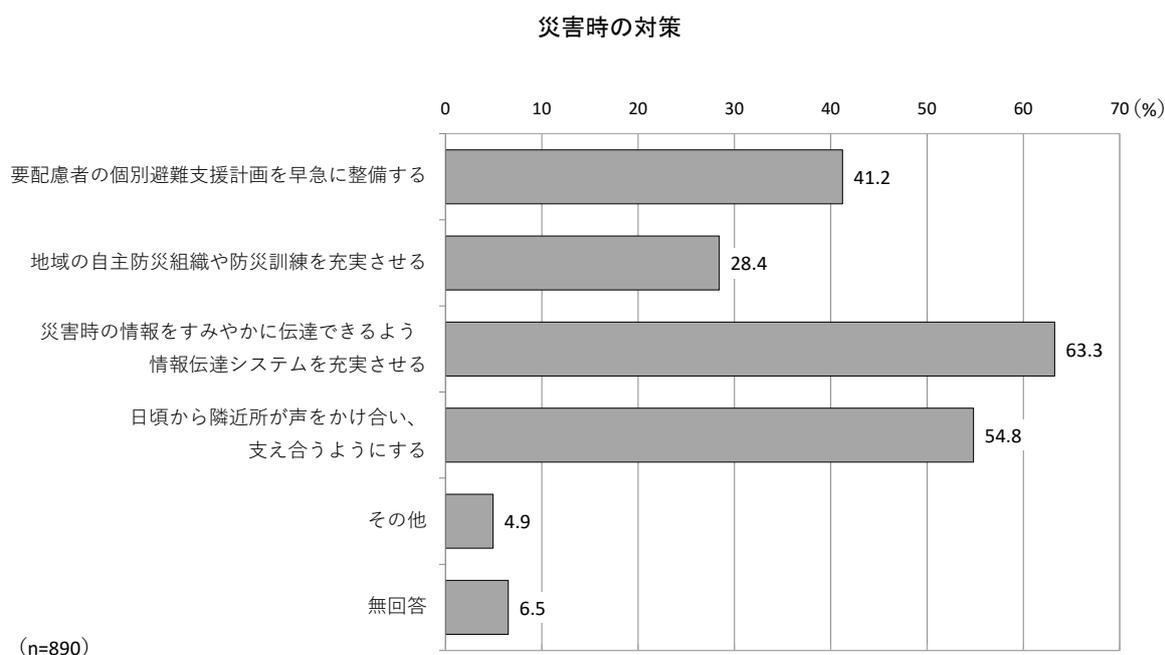


〔2〕災害時の対策

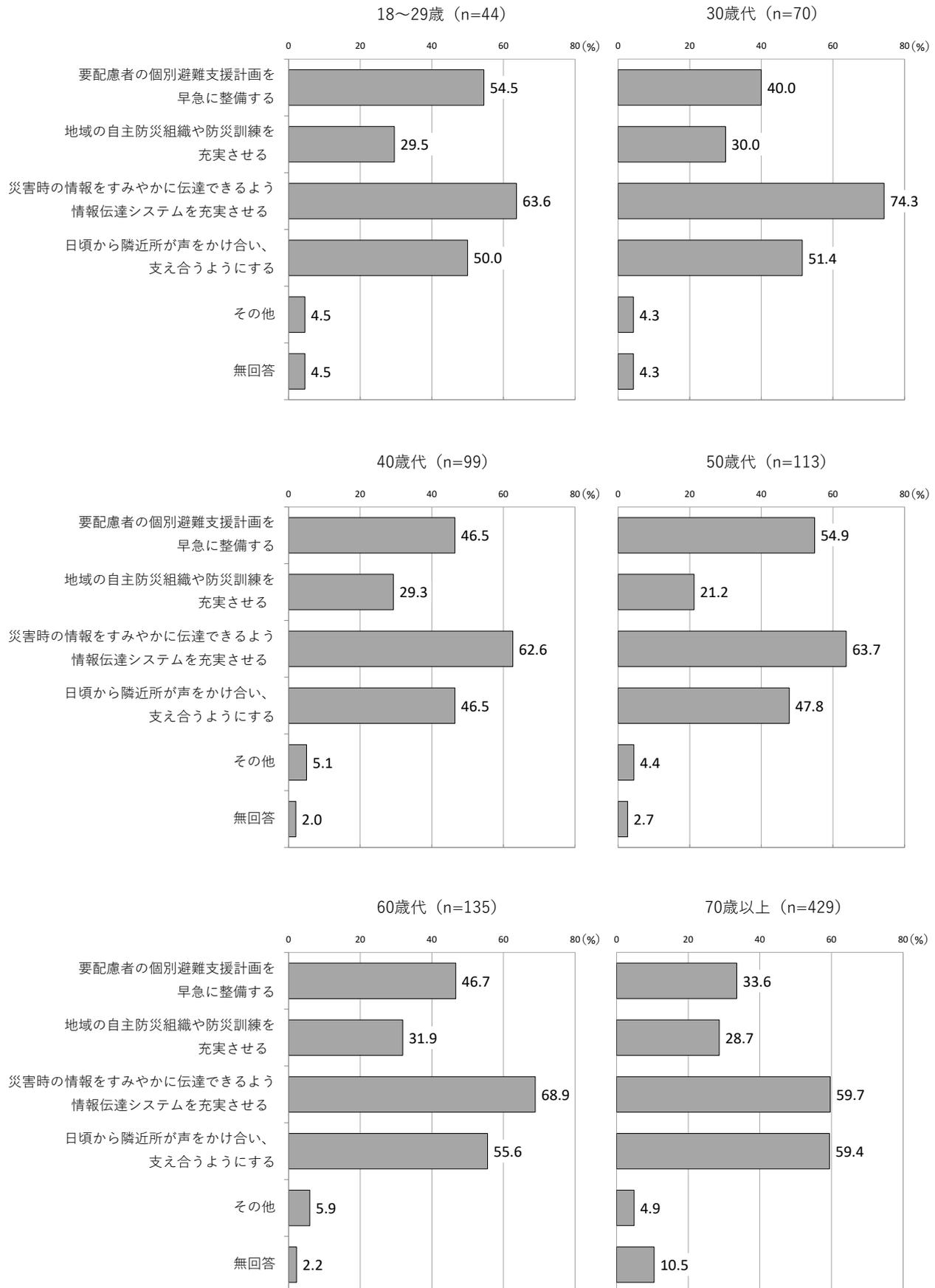
問28 仮に災害が起きたときに、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある方など支援に配慮を必要とする人をはじめ、市民の安全を確保するために、どのような対策に力を入れるべきだと思いますか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

災害が起きたとき、どのような対策に力を入れるべきかについては、「災害時の情報をすみやかに伝達できるよう情報伝達システムを充実させる」が63.3%と最も多く、次いで、「日頃から隣近所が声をかけ合い、支え合うようにする」が54.8%、「要配慮者の個別避難支援計画を早急に整備する」が41.2%、「地域の自主防災組織や防災訓練を充実させる」が28.4%となっています。

年齢別にみると、18～29歳と50歳代で「要配慮者の個別避難支援計画を早急に整備する」が、30歳代で「災害時の情報をすみやかに伝達できるよう情報伝達システムを充実させる」が全体に比べて特に多くなっています。



災害時の対策（年齢別）



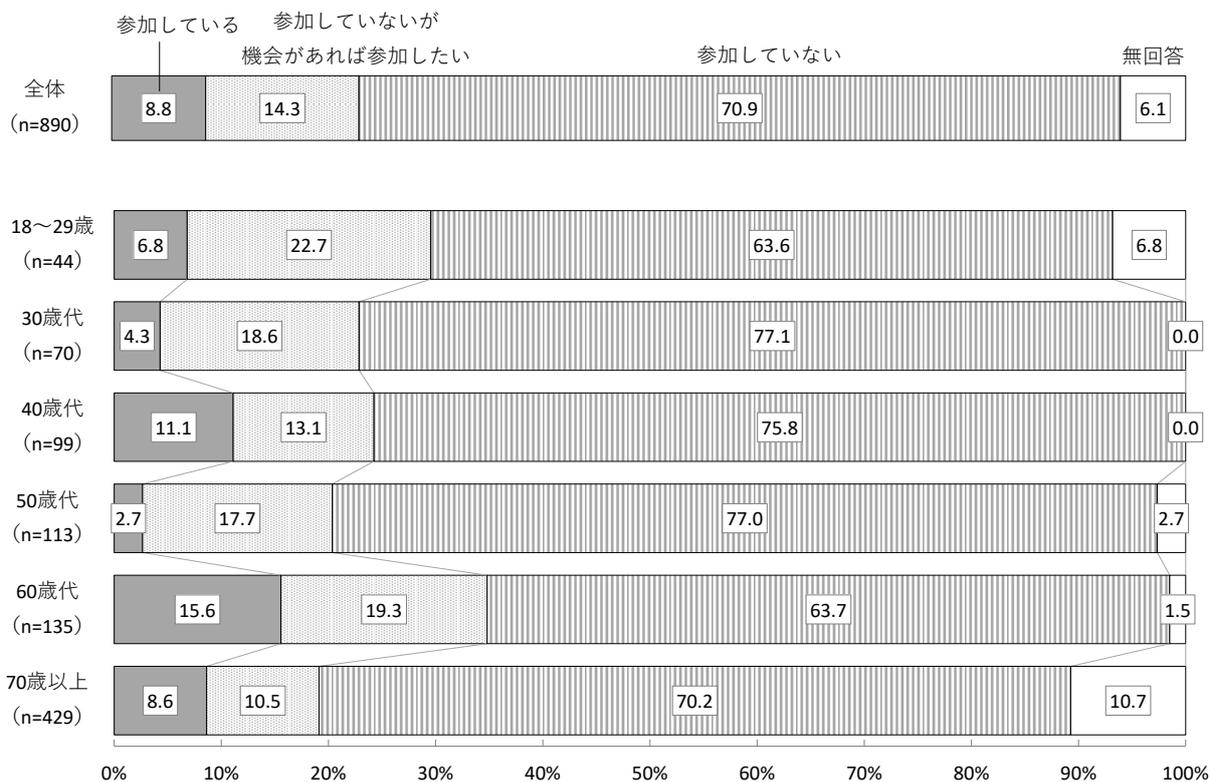
6 ボランティア活動について

〔1〕ボランティア活動への参加

問29 あなたは、ボランティア活動に参加していますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

ボランティア活動に参加しているかについては、全体では、「参加している」が8.8%、「参加していないが機会があれば参加したい」と「参加していない」を合わせた『参加なし』が85.2%となっています。なお、「参加していないが機会があれば参加したい」は14.3%となっています。年齢別にみると、30歳代で『参加なし』が全体に比べて特になくなっていきます。

ボランティア活動への参加

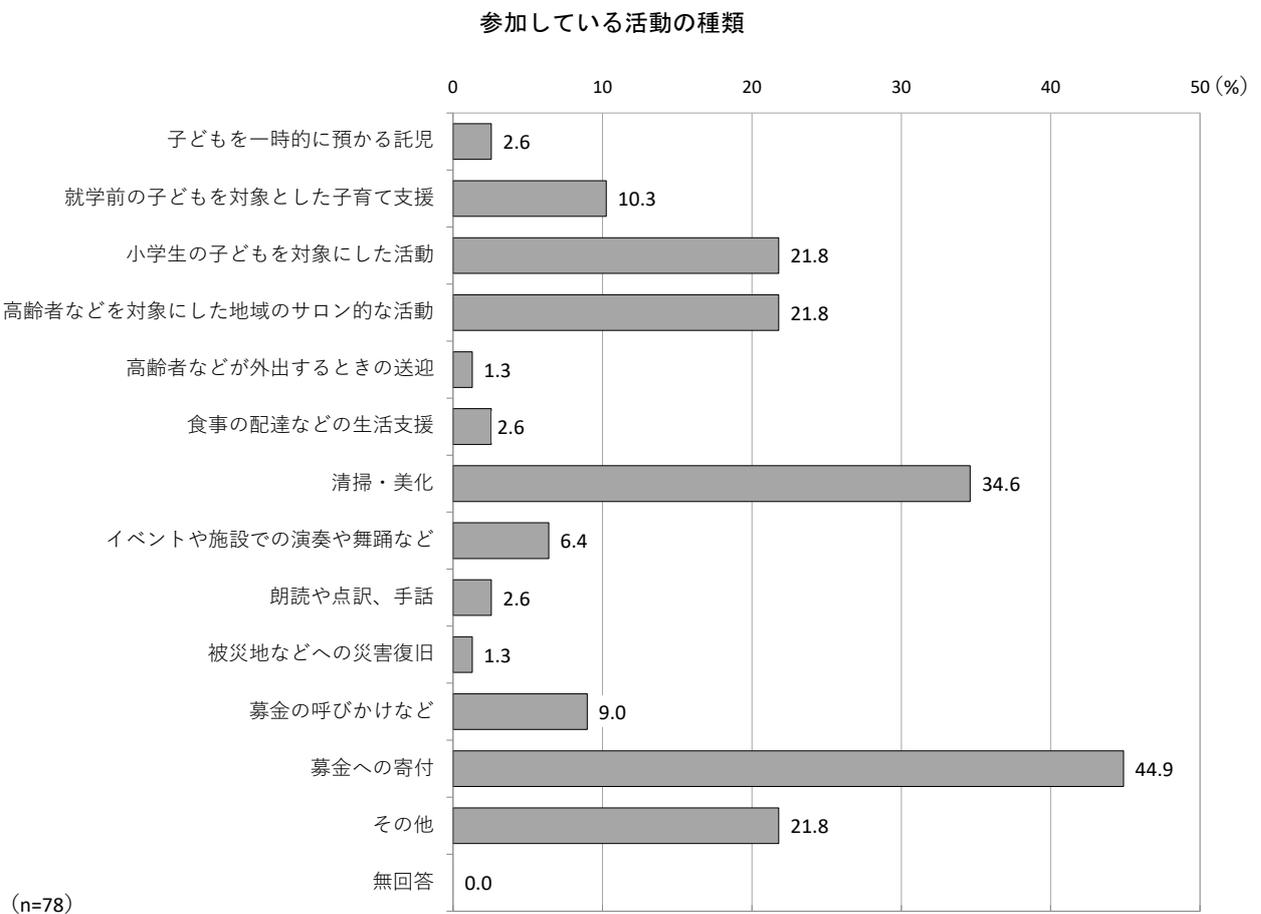


〔2〕参加している活動の種類

問30 問29で「参加している」を選んだ方におたずねします。

それはどのような活動ですか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

参加している活動については、「募金への寄付」が44.9%と最も多く、次いで、「清掃・美化」が34.6%、「小学生の子どもを対象にした活動」、「高齢者などを対象にした地域のサロンの活動」が21.8%となっています。

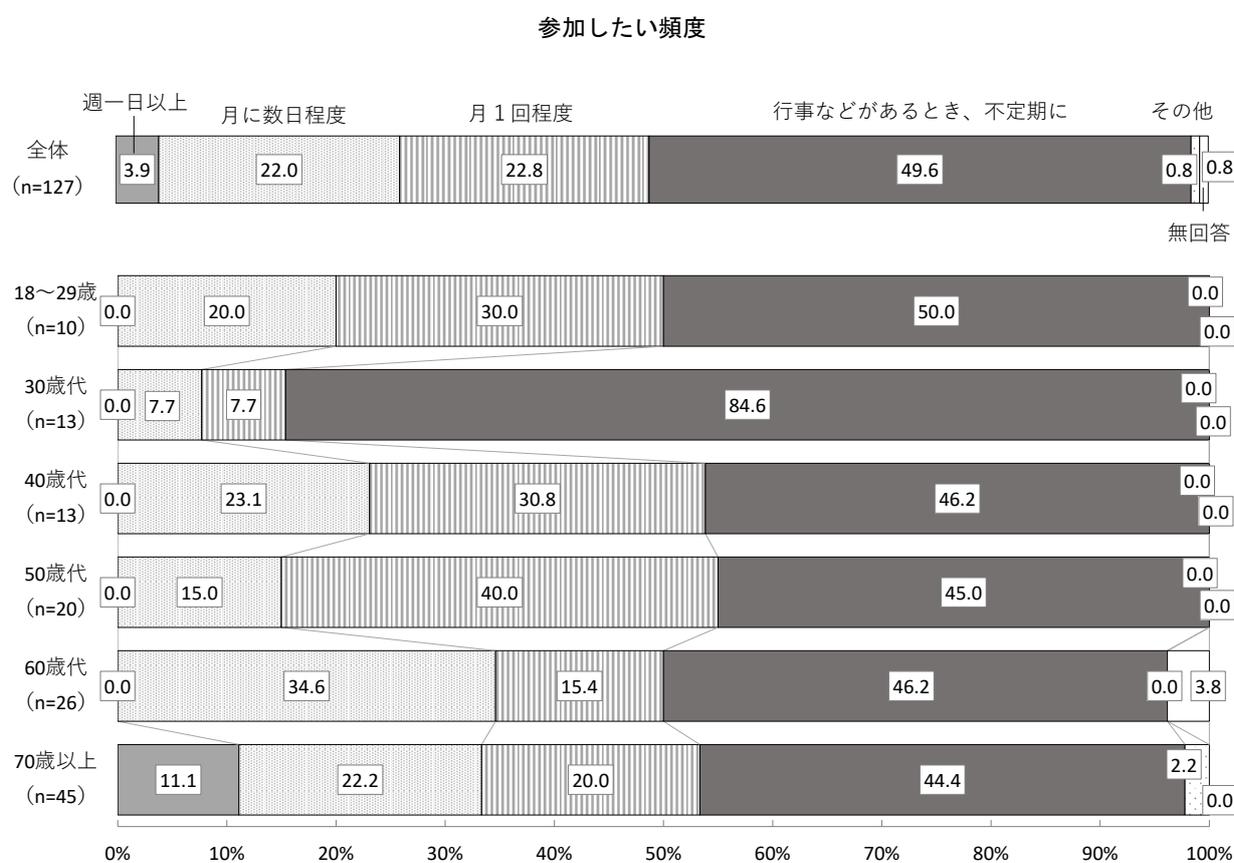


※他の問に比べて母数が少なくなっています。

〔3〕参加したい頻度

問31 問29で「参加していないが機会があれば参加したい」を選んだ方におたずねします。
 あなたは、どのくらいの頻度でボランティア活動に参加したいですか。当てはまるものに1つだけ〇をつけてください。

参加していないが機会があれば参加したい方が、どのくらいの頻度でボランティア活動に参加したいかについては、全体では、「行事などがあるとき、不定期に」が49.6%と最も多く、次いで、「月1回程度」が22.8%、「月に数日程度」が22.0%となっています。

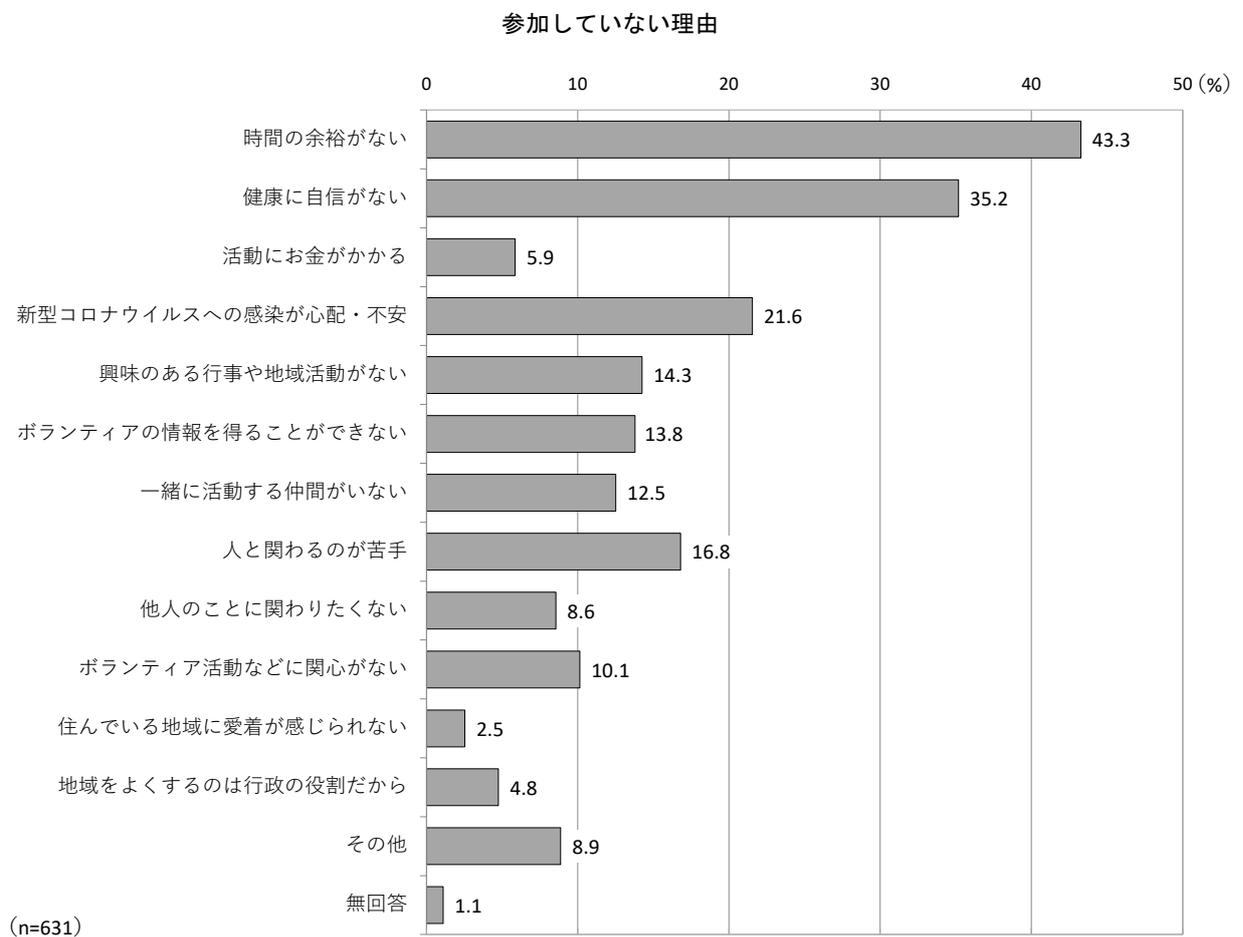


〔4〕参加していない理由

問32 問29で「参加していない」を選んだ方におたずねします。

それはどのような理由からですか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

参加していない理由については、「時間の余裕がない」が43.3%と最も多く、次いで、「健康に自信がない」が35.2%、「新型コロナウイルスへの感染が心配・不安」が21.6%、「人と関わるのが苦手」が16.8%となっています。一方、「ボランティア活動などに関心がない」は10.1%となっています。



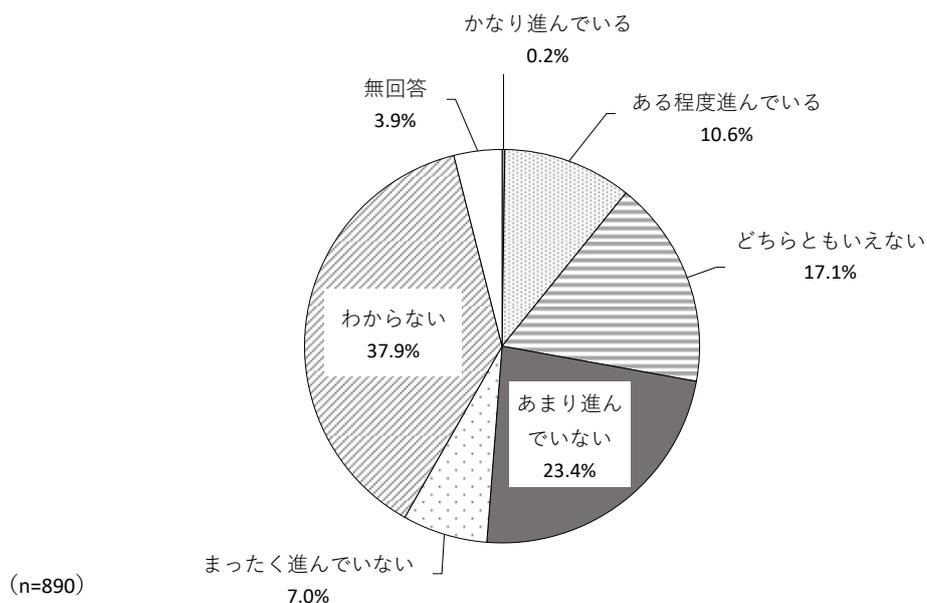
7 社会全体や城陽市の福祉について

〔1〕ノーマライゼーションへの理解

問33 城陽市において、「障がいのある方や体力が衰えた高齢者、認知症高齢者などが、他の人たちと同じ条件で生活ができる成熟した社会に改善していこう」というノーマライゼーションの考え方について、市民の理解や実践はどの程度だと思えますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

ノーマライゼーションの考え方についての城陽市民の理解や実践はどの程度だと思うかについては、「かなり進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせた『進んでいる』が10.8%、「あまり進んでいない」と「まったく進んでいない」を合わせた『進んでいない』が30.4%となっています。

ノーマライゼーションへの理解

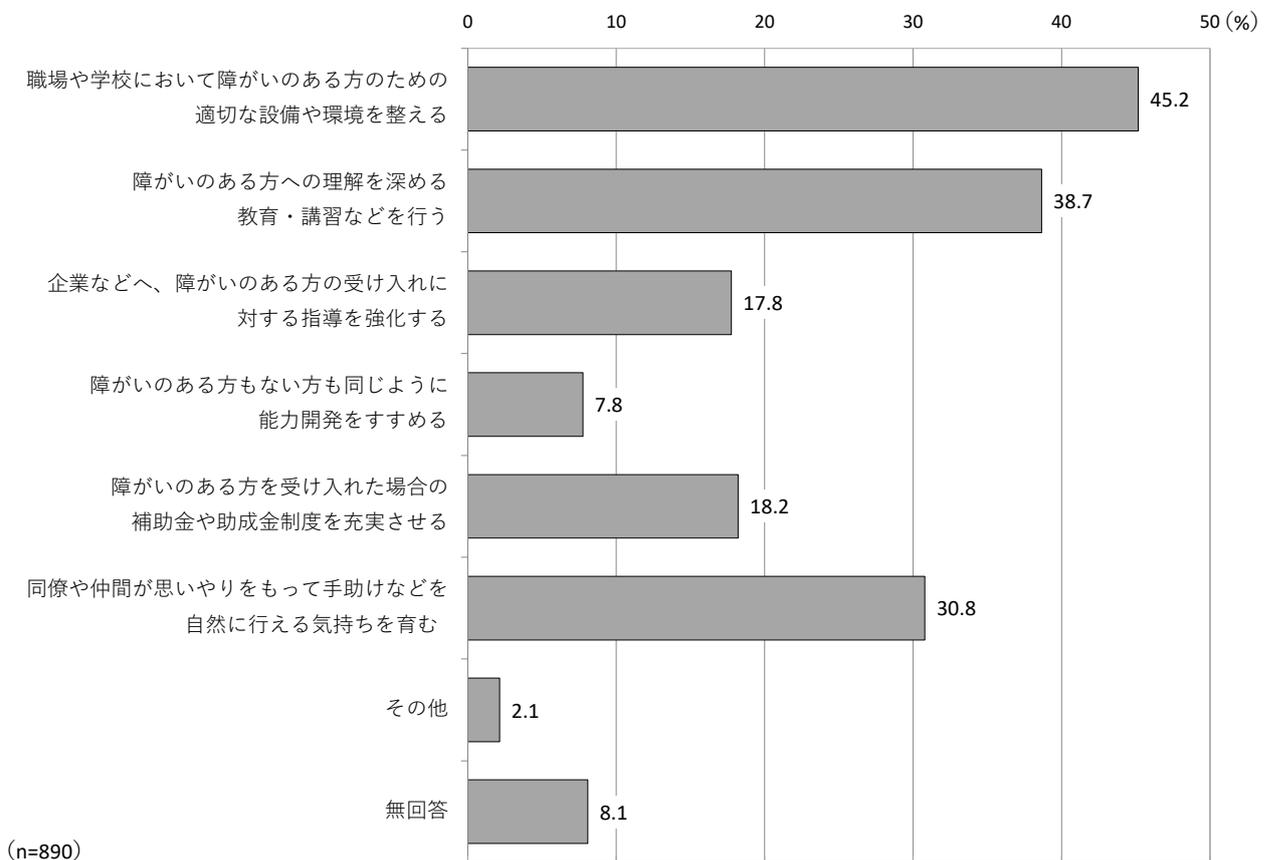


〔2〕 障がいのある方と共生するために必要なこと

問34 障がいのある方と一緒に働いたり、学習したりするためには、どのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

障がいのある方と一緒に働いたり、学習したりするために必要なことについては、「職場や学校において障がいのある方のための適切な設備や環境を整える」が45.2%と最も多く、次いで、「障がいのある方への理解を深める教育・講習などを行う」が38.7%、「同僚や仲間が思いやりをもって手助けなどを自然に行える気持ちを育む」が30.8%、「障がいのある方を受け入れた場合の補助金や助成金制度を充実させる」が18.2%となっています。

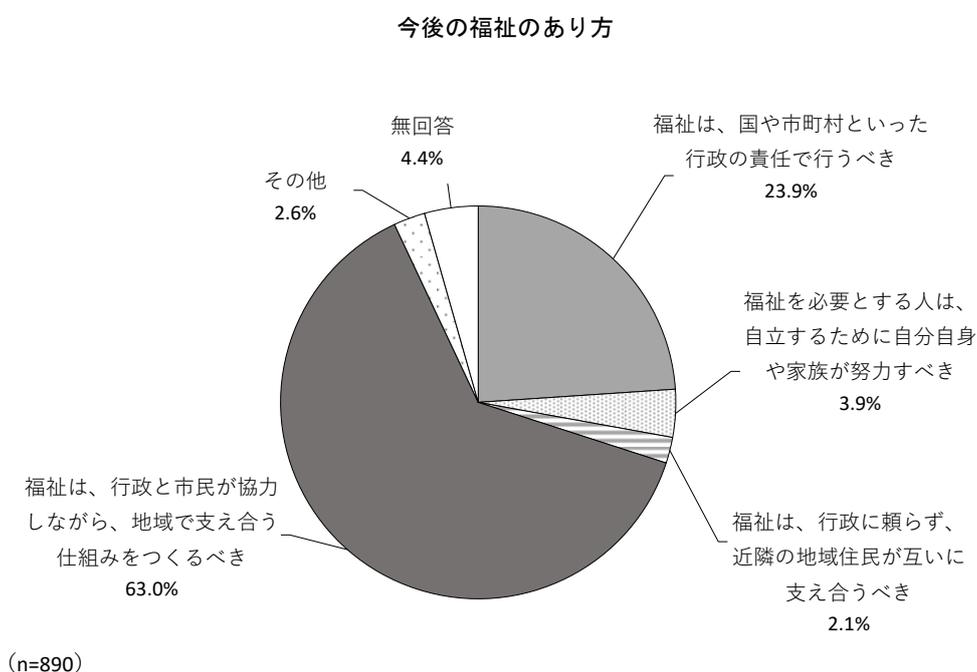
障がいのある方と共生するために必要なこと



〔3〕今後の福祉のあり方

問35 城陽市の今後の福祉のあり方について、あなたはどのようにお考えですか。お考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

城陽市の今後の福祉のあり方については、「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合う仕組みをつくるべき」が63.0%と最も多く、次いで、「福祉は、国や市町村といった行政の責任で行うべき」が23.9%となっています。一方、「福祉を必要とする人は、自立するために自分自身や家族が努力すべき」は3.9%、「福祉は、行政に頼らず、近隣の地域住民が互いに支え合うべき」は2.1%となっています。

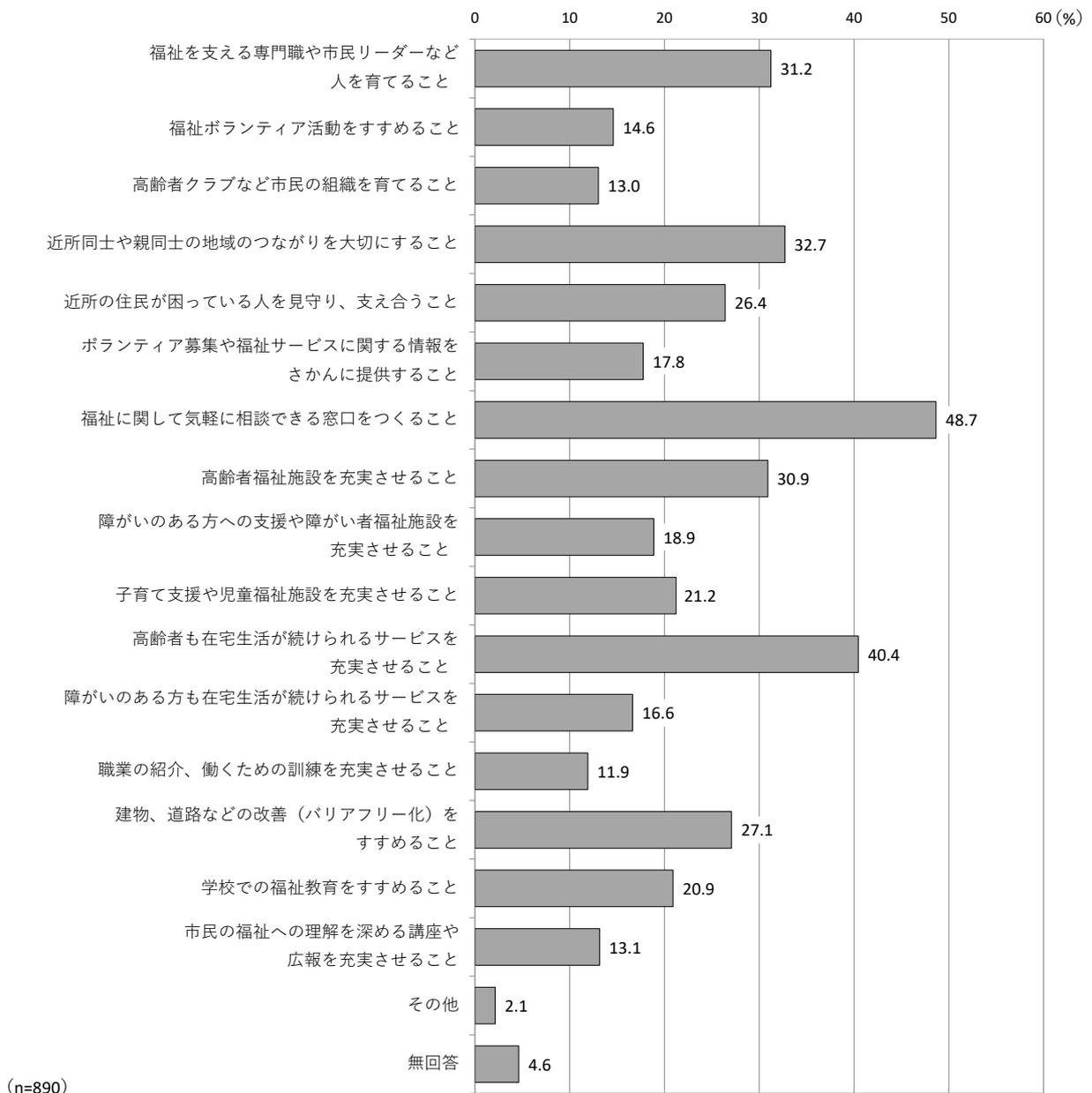


〔4〕互いに安心して暮らすために大切なこと

問36 城陽市で皆が支え合いながら安心して暮らすためには、特にどのようなことが大切だと思いますか。当てはまるものを5つまで選んで○をつけてください。

城陽市で皆が支え合いながら安心して暮らすために大切だと思うことについては、「福祉に関して気軽に相談できる窓口をつくること」が48.7%と最も多く、次いで、「高齢者も在宅生活が続けられるサービスを充実させること」が40.4%、「近所同士や親同士の地域のつながりを大切にすること」が32.7%、「福祉を支える専門職や市民リーダーなど人を育てること」が31.2%となっています。

互いに安心して暮らすために大切なこと



城陽市地域福祉計画策定に関する
アンケート調査結果報告書

城陽市 福祉保健部

令和5年(2023年)7月発行

〒610-0195 城陽市寺田東ノ口16番地、17番地

電話 0774-56-4030
